

高崎市文化財調査報告書第 255 集

中居町一丁目遺跡 2

—事務所建設に伴う埋蔵文化財発掘調査—

2010

高崎市教育委員会

中居町一丁目遺跡 2

—事務所建設に伴う埋蔵文化財発掘調査—

2010

高崎市教育委員会

例 言

1. 本書は、事務所建設に伴う中居町一丁目遺跡（高崎市遺跡番号443）の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 本遺跡の所在は、群馬県高崎市の中居町一丁目9番地2である。
3. 発掘調査は、平成21年6月8日より平成21年7月10日まで実施した。
4. 木調査及び整理作業は、高崎市教育委員会が、委託契約を締結した株式会社歴史の社の協力を得て実施した。
5. 発掘調査の体制は下記のとおりである。
高崎市教育委員会 出口一郎、須田 奈保子、角田真也
株式会社歴史の社 調査担当 村上章義 事務担当 唐沢健二
6. 本書の編集は、村上が行なった。執筆はIを田口が、IIIを倉田と向出が、他を村上が行なった。
7. 本調査における図面・写真・遺物は、高崎市教育委員会が保管している。
8. 発掘調査及び整理調査に従事した作業員は、以下の通りである。（敬称略・五十音順）
発掘調査 石川照子、岩倉 保、岩倉洋子、加納代代、神沢昭三、武田茂子、戸張泰義、長谷川 ツネ子、藤井昭男、横田久雄
遺構実測 石川照子、加納代代、神沢昭三
遺物洗浄・注記 伊東 貴代子、入澤芳子、小瀧幸子、木暮利夫、清水夏子、吉野賢次
遺物接合・復元 篠原信子、深井美紀
9. 報告書作成は、以下の体制で行なった。（敬称略・五十音順）
遺物実測 篠原信子、田中浩江、深井美紀
遺構・遺物図トレース 篠原信子、深井美紀
報告書レイアウト 篠原信子、深井美紀、向出博之、村上章義
遺物写真撮影 村上章義、山際哲章
10. 発掘調査の実施及び本書の刊行にあたり、上記の他に、下記の諸氏、諸機関にご指導・ご協力を賜りました。記して謝意を表します。（敬称略・五十音順）
安生素明、小川朋恵、株式会社シン技術コンサル、株式会社測研、坂口 一

凡 例

1. 本書掲載の第1図は国土地理院発行1/25,000地形図「高崎」を、第3図は高崎市発行1/2,500「高崎市都市計画基本図」を、それぞれ使用した。
2. 遺構挿入の座標については、世界測地系（測地成果2000）を使用した。図中に示した方位は、座標北である。
3. 土層および遺物の色調は、『新版標準土色帖』（2001年版）による。
4. 本書における遺構種類の略号は、SI=竪穴住居跡、SK=土坑、Pit=ピット、SD=溝、SX=竅穴状遺構である。
5. 本書における火山噴出物（テフラ）の略号は、(As-)BP=浅間-板鼻褐色軽石、(As-)YP=浅間-板鼻黄色軽石、(As-)C=浅間Cテフラ、(As-)B=浅間Bテフラ、(As-)A=浅間Aテフラである。
6. 本書におけるS字状口縁台付甕の略称は、S字甕である。
7. 基本土層では、土壌学の累積土層（『土壌学と考古学』博友社、1987）と同様の考え方にたつて、堆積層を大文字のローマ数字、土壌層位を大文字のアルファベットで続けて表現した。遺構埋没土層では、基本土層に対応する層以外の層に上から算用数字を付した。
8. 基本土層および遺構覆土の土層注記は、土壌調査で用いられる項目に基づき、以下の書式で記載した。
層番号 ①土色(色相 明度/彩度)②粒径③土性④粘着性⑤可塑性⑥土壤硬度⑦混入物
9. 遺物観察表中の口径等の法量の数値は、それぞれ接地点からの距離である。単位は「cm」である。
10. 抄録における北緯と東経の記載の書式は、DMS形式(degree度)である。
11. 遺物挿入図において、須臾器の断面を黒塗りて表現した。
12. 遺構挿入図における「HP」、「HP」は、平板測量時において基準として使用した仮座標を示している。

目次

例言

凡例

I. 調査に至る経緯	1
II. 調査の方法と経過	1
III. 遺跡の立地と環境	1
IV. 基本層序	3
V. 検出された遺構と遺物	5
1. 第1面(IV層上面)の遺構	5
2. 第2面(V層上面)の遺構	7
3. 第3面(VI層上面)の遺構	7
VI. まとめ	11
写真図版	
抄録	

挿図目次

第1図 周辺遺跡分布図	2
第2図 基本層序	3
第3図 調査区位置図	3
第4図 第1面遺構平・断面図	4
第5図 第2面遺構平・断面図	6
第6図 第3面遺構平・断面図	8
第7図 第3面遺構断面図	9
第8図 SI-1平・断面図	10
第9図 SX-3遺物出土状況	12
第10図 SD-14・SD-18・SD-21出土遺物図	13
第11図 SX-1・SX-2出土遺物図	13
第12図 SX-3出土遺物図	14
第13図 SX-4・SX-5出土遺物図	15
第14図 SD-28出土遺物図(1)	16
第15図 SD-28出土遺物図(2)	17
第16図 SI-1出土遺物図	18
第17図 第3面遺構外出土遺物図	18

表目次

第1表 SD-14出土遺物観察表	13
第2表 SD-18出土遺物観察表	13
第3表 SD-21出土遺物観察表	13
第4表 SX-1出土遺物観察表	14
第5表 SX-2出土遺物観察表	14
第6表 SX-3出土遺物観察表	15
第7表 SX-4出土遺物観察表	15
第8表 SX-5出土遺物観察表	15
第9表 SD-28出土遺物観察表(1)	17
第10表 SD-28出土遺物観察表(2)	18
第11表 SI-1出土遺物観察表	18
第12表 第3面遺構外出土遺物観察表	18

I. 調査に至る経緯

平成21年2月、吉井 宏司氏(以下事業者)より高崎市教育委員会(以下市教委)に中居町一丁日に計画する事務所建設予定地の埋蔵文化財の状況について照会があった。

市教委は、該当地周辺において、区画整理事業や住宅建設に関わり古墳～平安時代の集落跡や中近世の館跡などが調査されており、周辺地帯にも拡がる可能性が大きいことから、試掘調査による確認を行うことと、その結果による工事と埋蔵文化財保護との調整が必要な旨を回答した。

同年2月27日付けで事業者より文化財保護法93条の発掘届及び試掘調査申込書が提出されたのを受けて、市教委は同年3月9日に工事予定地の試掘調査を実施し、古墳時代の溝跡や掘込み遺構を複数確認した。

試掘結果を受けて、埋蔵文化財保護について事業者と協議を行ったが、建設予定の変更は不可能ということなので、記録保存の発掘調査を実施することで合意した。

発掘調査は、市教委の作成する調査仕様書に基づく指導・監理の下、株式会社歴史の杜に委託して実施することとなり、平成21年6月4日付けで高崎市長・事業者・歴史の杜の三者協定を締結し、さらに協定に基づき平成21年6月4日付けで事業者と歴史の杜の二者で発掘調査委託契約が締結された。

II. 調査の方法と経過

調査の方法 遺構確認の検出は、第1面および第2面は重機によって行い、第3面は出土遺物が多量であったため人為によって行った。遺構の掘削は、検出された各遺構の形態や大きさを考慮して適宜土層観察用のベルトを残し、土の堆積状況や遺物の出土状況に留意しながら行なった。遺構の記録は、遺構実測図作成及び写真撮影を実施した。遺構実測図は、比較的小規模な遺構や土層断面はレベルや平板などを用い、比較的大規模な遺構や土層断面は光波測距儀を用いて作成した。写真記録は、35mm小型一眼レフカメラを用いて、モノクロームネガ・カラーリバーサルフィルムの2種類を使用して撮影を行なった。遺物の採り上げは、原位置ないしそれに準ずる位置で出土していると判断したものは、平面図を作成し座標値と標高値を記録し、採番^{*}して採り上げた。それ以外の遺物は、比較的大型の破片や床面に近い位置の出土など出土状況の良いものは、座標値と標高値を記録し採番して採り上げ、小破片や比較的高い位置の出土など出土状況の悪いものは、遺構の埋没土出土として一括して採り上げた。グリッドの設定は行わなかった。

* データ管理のために、それぞれのデータに固有の番号を号えること(「人跡 第二版」)。numberingの取崩。

調査の経過 発掘調査は、平成21年6月8日より平成21年7月10日まで実施した。以下に調査経過の概略を記載する。

6月2日 高崎市教育委員会担当者と地権者・事業者と3者協議を行なった。

6月8日～6月12日 第1面(SD-1～12)調査。(8日 重機による表土はぎ。作業員雇用開始)

6月15日～6月24日 第2面(SD-13～25、SK-1)調査。(15日 重機による掘り下げ)

6月24日～7月10日 第3面(SI-1、SX-1～5、SD-26～28、SK-2～7、Pit 1～3)調査。(24日～26日 人為による掘り下げ)

7月10日 空掘。調査終了。

III. 遺跡の立地と環境

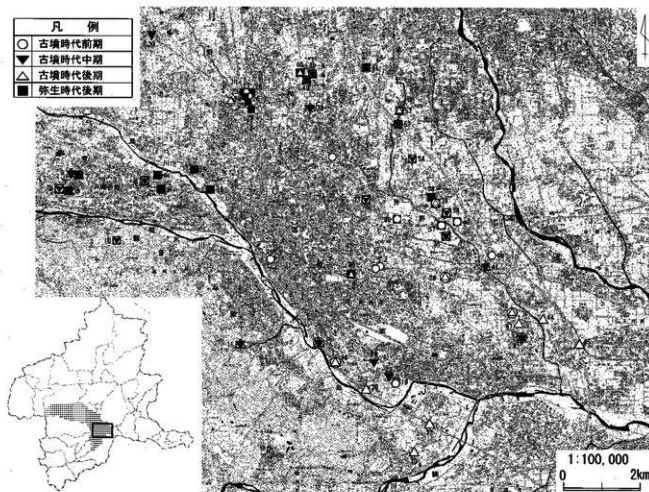
遺跡の位置と周辺の地形 本遺跡(1、2)は、高崎市南東部の中居町に所在し、高崎駅の東約2kmに位置する。遺跡は、井野川と烏川に挟まれた台地上にある微高地の一つに立地する。遺跡の周辺一帯は、前掲台地の一部である高崎台地と呼ばれる地形であり、原利根川の扇状地堆積物の前橋砂礫層を基礎として、約2.1万年前に堆積した前橋泥流、約2万年前に降下したAs-IP、約1.3万年前に降下したAs-YP、約1.2万年前に堆積した高崎泥流などによって形成されたものである。遺跡のある微高地周辺の台地は、多数の小河川が流れ、微高地と低湿地とが入り組んだ複雑な地形となっている。本調査地点(1)の北東に隣接する2005年度に群馬県埋蔵文化財調査事業団によって調査が行われた本遺跡の第1次調査地点(2)は微高地の縁辺部に立地し、その東側は低湿地帯が広がっている。

周辺の遺跡 本遺跡の所在する高崎市は、弥生時代後期から古墳時代前期における群馬県内の地域区分によると、井野川流域に区分される(若狭1990、深沢1998)。この流域は、群馬県内において当該時期の土器編年が最も進められた区域でもある(深沢1998)。『新編高崎市史』では、さらに碓氷川や烏川、天下川、染谷川などの河川を中心に細分されている(市史編さん委員会2000、2003)。本遺跡は、この細分区域のうち、高崎台地に区分される。

烏川と碓氷川に挟まれた八幡台地は、弥生時代後期に集落が出現した引間遺跡(3)と八幡遺跡(4)で古墳時代後期まで集落が存続し、弥生時代後期に引間IV、引間V、八幡六枚、八幡二子塚遺跡(5～8)で一時的に住居がみられ、古墳時代中期以降に八幡中原遺跡(9)で集落がみられる。観音山丘陵では、弥生時代後期に碓氷川右岸の少林山台遺跡(10)で集落が出現し、古墳時代中期に烏川右岸中流の寺尾東館遺跡(11)で、後期に烏川右岸下流の田端遺跡(12)、山名戸矢遺跡(13)で新たに集落が出現する。烏川左岸は、弥生時代後期に上流の上並榎原館前遺跡(14)、上並榎原遺跡(15)で、古墳時代前期に中流の高崎城田遺跡(16)で集落が出現するが、時的であり、下流では、

同じく前期に成立した上佐野I遺跡(17)、下佐野I遺跡(18)で古墳時代後期まで集落が展開し、前期の香賀野万福寺I・II遺跡(19)、後期の下佐野II遺跡(20)に集落が拡大する中で、中期に浅間山古墳(21)、大輪巻古墳(22)といった大塚前方後円墳がつけられた。井野川流域は、上流域で弥生時代後期に熊野堂遺跡(23～25)で集落が出現し、古墳時代中期に八木熊野堂遺跡(26・27)に展開して古墳時代後期まで集落が存続する。弥生時代後期に雨壺、融通寺遺跡(28・29)で、古墳時代中期に行力春名社、芦田貝戸II遺跡(30・31)で一時的に住居がみられ、古墳時代中期以降に小八木1遺跡(32)で集落がみられる。中下流域では、弥生時代後期より上大松北宅地遺跡(33)、鈴ノ宮遺跡(34)、高崎情頼団地遺跡(35)で古墳時代後期まで集落が展開する。宿人瀬村西、方相寺、矢島竹之内、矢島町栗師、元島名、元島名下河原、船員、不動山東、下滝赤坂、八幡原稲荷遺跡(36～45)で断続的に集落が営まれ、古墳時代前期に元島名符冢城古墳(46)、後期には観音山古墳(47)がつけられた。天字川流域では、弥生時代後期以降、正観寺遺跡群(48～50)が継続している。染谷川流域では、弥生時代後期に日高遺跡(51)で住居がみられるが、新保、新保田中村前、白島相ノ沢遺跡(52～54)で古墳時代後期まで集落が展開されている。高崎台地では、弥生時代後期に高岡村前遺跡(55)で新たに集落が出現し、続く古墳時代前期には、本遺跡第1次調査地点(2)、柴崎遺跡群V(56)で集落が展開する。居住域ではないものの、本調査地点(1)もこの時期に利用が開始されている。中期の様相は不明であるが、後期には再びこれらの遺跡で集落が出現する。

集落遺跡の分布は、古墳時代を通じて次第に井野川と烏川の下流域に拡大している。このような大勢のなかで、6世紀末～7世紀初めに本調査地点で住居が出現することが位置付けられる。



- 1・本調査地点(中期一丁目遺跡第2次調査地点) 2・本遺跡第1次調査地点 3・引間遺跡 4・八幡遺跡 5・引間IV遺跡 6・引間V遺跡 7・八幡大穴遺跡 8・八幡二子塚遺跡 9・八幡中塚遺跡 10・少松山中遺跡 11・中野第11号墳遺跡 12・熊崎遺跡 13・山名戸尻遺跡 14・上佐野集落跡遺跡 15・上佐野集落跡 17・上佐野集落跡 18・下佐野集落跡 19・香賀野万福寺I・II遺跡 20・下佐野II遺跡 21・熊崎山古墳 22・大輪巻古墳 23・熊野堂遺跡(地区別遺跡) 24・熊野堂遺跡(地区別遺跡) 25・熊野堂遺跡(地区別遺跡) 26・八木熊野堂遺跡 27・八木熊野堂II遺跡 28・熊野堂遺跡 29・熊野堂遺跡 30・行力春名社遺跡 31・芦田貝戸II遺跡 32・小八木1遺跡 33・上大松北宅地遺跡 34・鈴ノ宮遺跡 35・高崎情頼団地遺跡 36・宿人瀬村西遺跡 37・方相寺遺跡 38・矢島竹之内遺跡 39・矢島町栗師遺跡 40・元島名遺跡 41・元島名下河原遺跡 42・船員遺跡 43・不動山東遺跡 44・下滝赤坂遺跡 45・八幡原稲荷遺跡 46・元島名符冢城古墳 47・観音山古墳 48・正観寺遺跡群 49・正観寺遺跡群 50・正観寺遺跡群 51・日高遺跡 52・新保遺跡 53・新保田中村前遺跡 54・白島相ノ沢遺跡 55・高岡村前遺跡 56・柴崎遺跡群V

第1図 周辺遺跡分布図

IV. 基本層序

本調査地点は、高崎泥流上に形成されたローム層を最下層とする。調査では、試掘調査の成果に基づき、I層からIII層まで直横による除去を行なったため、I層からIII層まで表土層として扱った。

I層…母材のAs-A (I C層)と現代耕作土 (I A層)に分かれる。II層との間に部分的にAs-Aを挟むことからAs-A混土を主体と考えられる。現代の耕作によって、II A層の上部とI C層を攪拌して生成されたと考えられる。

II層…水田土壤によくみられる鉄・マンガン酸化集積層 (II B 1層)を間に挟む作土 (II A層)と心土 (II B 2層)に分かれる。作土と心土の間に鉄・マンガン酸化集積層を形成する土壌断面は、表面水型水田土壤と呼ばれている水田に特有の土壤である (松井 1988)。I A層との間にAs-Aを挟み、下層にAs-B (III C層)が認められることから、層序に乱れがなければ、近世の水田土壤と考えられる。

III層…母材のAs-B (III C層)とその攪拌土 (III A層)に分かれる。基本土層断面ではみられないが、SD-12の範囲内で比較的良好な状態でAs-Bの堆積が確認されたため、III C層は四層に細分される (第4図中のSD-5・6断面図)。上からBスコリア上部 (III C 1層)、ピンクアッシュ (III C 2層)、酸化Bスコリア下部 (III C 3層)、未酸化Bスコリア下部 (III C 4層)である。Bスコリア上部とピンクアッシュは、As-B混土層 (III A層)の形成に伴う攪拌により部分的な残存にとどまるもの、III C層の直上で確認されている。

IV層…黒色の粘質土 (IV A層)と灰色の粘質土 (IV B層)に分かれる。このような下層土が弱還元して灰色を呈する土壌断面は、地下水水位が比較的高い土壤にみられる。灰色沖積土と呼称され土に水田に利用される (松井 1988) が、IV A層の上面 (第1面)では畦畔など水田の痕跡は確認できなかった。

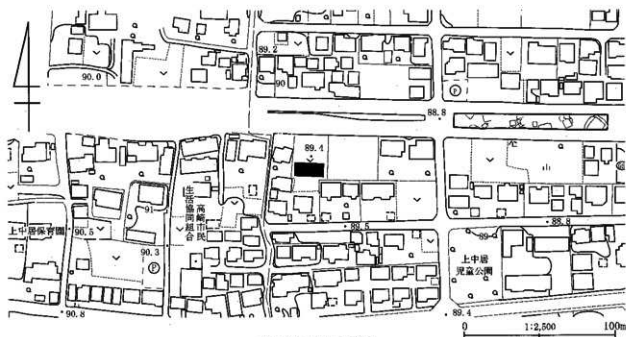
V層…黒色の粘質土 (V A層)と褐色の粘質土 (V B層)に分かれる。As-Cの混入は認められなかった。主に古墳時代前期の遺物を包含する。SI-1、SX-1～5、SD-28の埋没土でもある。V層上面を第2面とした。

VI層…ローム漸移層。VI層上面を第3面とした。

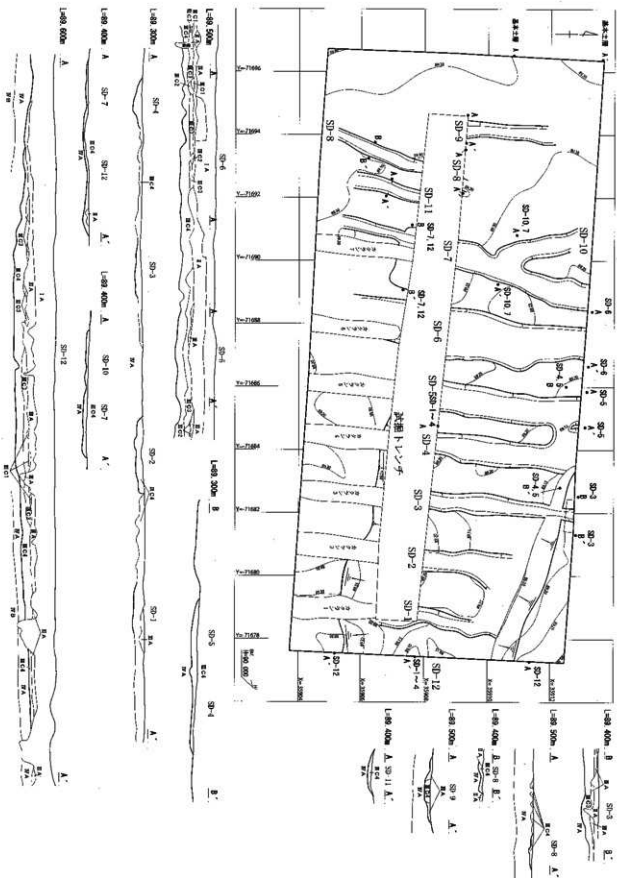
IV層…ローム層。

- | | | | |
|--------|------------------------------|-----------|---|
| I A | ①灰白色 (Mn=2.5Y 7/1) | ②シルト③SL | ④なし⑤なし⑥強⑦灰白色 (Mn10YR 8/1) 粘土 (φ0.05-0.5mm) を3-5%含む。 |
| I C | ①鉄褐色 (8mY 8/2) | ②砂 | ③S ④なし⑤なし⑥強⑦灰色 (8mY 5) スコリア (φ0.05-0.2mm) を20-30%含む。 |
| II A | ①灰黄色 (2.5Y 7/2) | ②シルト③SL | ④なし⑤なし⑥強⑦灰白色 (Mn10YR 8/1) 粘土 (φ0.05-0.5mm) を2%含む。 |
| II B 1 | ①明赤褐色 (8m5YR 5/6) | | |
| II B 2 | ①灰黄褐色 (Mn10YR 4/2) ②シルト③SL④砂 | ⑤弱 | ⑥強⑦灰白色 (Mn10YR 8/1) 粘土 (φ0.05-0.1mm) を含む。 |
| III A | ①褐色 (8mY 4/1) | ②シルト③SL | ④なし⑤なし⑥強⑦灰白色 (Mn10YR 8/1) 粘土 (φ0.05-0.1mm) を1-2%含む。 |
| III A' | ①灰褐色 (8mY 4/2) | ②シルト③SL | ④なし⑤なし⑥強⑦灰白色 (Mn10YR 8/1) 粘土 (φ0.05以下) を40-50%含む。 |
| III C | ①灰黄色 (8m5Y 8/3) | ②バミス③S | ④なし⑤なし⑥強 |
| | | | ⑦灰色 (8mY 5/3) スコリア (φ0.05-0.1mm) を30-40%含む。灰色 (8mY 6/7) アッシュ (φ0.05以下) を3-5%含む。 |
| IV A | ①黒褐色 (8m10YR 3/2) | ②シルト③SL④砂 | ⑤弱⑥強⑦灰白色 (Mn10YR 8/1) 粘土 (φ0.03-0.1mm) を1-2%含む。 |
| IV B | ①褐色 (8m10YR 4/1) | ②シルト③SL④砂 | ⑤中⑥強⑦灰白色 (Mn10YR 8/1) 粘土 (φ0.05-0.1mm) を1-2%含む。 |
| V A | ①黒褐色 (8m10YR 3/1) | ②シルト③CL | ④中⑤中⑥強⑦灰黄褐色 (8m10YR 6/2) 粘土 (φ0.045-0.08mm) を1-3%含む。 |
| VI | ①灰黄褐色 (8m10YR 4/2) ②シルト③CL | ④中⑤中 | ⑥強⑦灰黄褐色 (8m10YR 6/2) 粘土 (φ0.17-0.18mm) を1-3%含む。 |

第2図 基本層序



第3図 調査区位置図



第4図 第1面敷地平面・断面図(平面図S-1:120, 断面図S-1:40)

V. 検出された遺構と遺物

今回の調査では3面の調査を行なった。検出された遺構は、溝28条、竪穴住居跡1軒、竪穴状遺構5基、土坑7基、ピット3基であった。遺物は、溝および竪穴状遺構、竪穴住居跡からの出土を中心に、S字変を主とする古墳時代前期の土師器等、破片数にして数百点が出た。このうち、原位置ないしそれに準ずる位置で出土していると判断されたものと出土状況の良いものを中心に、各遺構の遺物の出土傾向を示すものを78点掲載した。

1. 第1面 (IV層上面) の遺構

1～11号溝 (SD-1～11, 第4回)

調査区の全体にほぼ南北の方向で検出された。試掘調査においてAs-B下面で確認された溝と一致する。ほぼ一定の間隔で並び、幅は基本的に狭く、深さは非常に浅い。底面に凹凸があり、一般的に川砂と呼ばれる細かな砂礫の堆積も認められないことから、水路であったとは考えにくい。試掘調査では耕作痕との所見であった。本調査における注目すべき点は、試掘トレンチを挟んだ南側で検出された溝状のカクランとSD-1～6がほぼ一致することである。カクランと溝との相違は、底面にAs-Bが残存しているか否かであったが、カクラン自体As-B層よりも下層まで掘り込まれているもの、北に向かうにつれ浅くなっており、これらの溝がカクランの一部である可能性は捨象できない。出土遺物は、第3面由来のS字変を主とする古墳時代前期の土師器片が多く、溝に伴う遺物は認められなかった。上層断面中に下位層であるIV A層土がブロック状に認められたことから、少なくともAs-Bの降下以後に掘りこまれたものと考えられる。

12号溝 (SD-12, 第4回)

調査区の東半分で検出されたが、西半分では検出されなかった。北西方向から南東方向に向かう。溝の底面と南北の確認面との比高差が10～15cmある。SD-1～11と異なり、かなり幅広く比較的深い。同様に川砂の堆積は認められなかった。出土遺物は、SD-1～11と同様に第3面由来の古墳時代前期の土師器片が多く、溝に伴う遺物は認められなかった。SD-1～11と異なり、上位からの掘り込みは認められなかった。また、ある程度フールユニットが特定できるほどAs-Bが最も良好に残存していたため、12号溝を埋没したAs-Bは純層であると考えられる。以上の点から、12号溝の埋没時期は、As-B降下以前であると考えられる。

第1面における西端と東端の比高差は5cm程度であり、西から東に緩やかに傾斜している。基本土層断面中の一部でAs-B層(ⅢC4層)とAs-B弱土層(ⅢA7層)とが逆転していたため、基本土層断面付近ではAs-B下の面が削平されている可能性も考えられた。しかし、SD-12の範囲内ほどではないし、As-Bが層状に堆積しており、As-B層土との逆転は基本土層中の一箇所に限られる。また、東平におけるSD-12の深さから逆算すると、少なくとも10cm以上削平したことになり、As-Bが層状に堆積していることと矛盾する。従って、削平されていないと判断した。加えて、土層断面において下層に落ち込みが認められ、実際に第3面の調査区の東端でSD-28が検出されたことを総合的に鑑みれば、As-B降下までに完全に埋没しなかった自然の落ち込みかもしれない。

第4回 土層注記

SD-3 SP, B

ⅠA ①黄褐色(Ⅱa)10R 3/1 ②シルト③灰④なし⑤なし⑥赤⑦-

ⅡC ①赤褐色(Ⅱc)5R 4/0②砂 ③なし④なし⑤赤

①黄褐色(Ⅱe)2.5T 8/0ベニス(φ0.05-0.1cm)・黒色(Ⅱe)2.5T 2/1スロリア(φ0.05cm以下)を30-40%含む。赤褐色(Ⅱe)5Y 3/1シルトブロック(φ3.0-5.0cm)を7-10%含む。
②黄褐色(Ⅱe)10Y 5/3ベニス(φ0.5-1.2cm)をIV A層土上に15%含む。灰白色(Ⅱa)7/7アッシュをIV A層土上に30-40%含む。

SD-4・5

ⅡC 4 ①黄褐色(Ⅱe)2.5T 7/6②砂③なし④なし⑤赤⑥黒色(Ⅱe)2.5T 2/1スロリア(φ0.05-0.1cm)を30-40%含む。IV A層土ブロック(φ10.0cm)を1点含む。

SD-5・6

Ⅰ ①灰白色(Ⅱa)2.5T 7/1 ②シルト③SL ④なし⑤なし⑥しょう灰白色(Ⅱa)2.5T 7/1砂粒(φ0.04-0.7cm)を30-40%含む。

Ⅱ ①黄褐色(Ⅱe)2.5T 7/2 ②シルト③SL ④砂 ⑤砂 ⑥赤 ⑦灰白色(Ⅱa)2.5T 7/1砂粒(φ0.04-0.7cm)を20-25%含む。

Ⅲ ①黄褐色(Ⅱe)2.5T 7/3 ②シルト③SL ④砂 ⑤砂 ⑥赤

①灰褐色(Ⅱe)2.5T 7/3②黄褐色(Ⅱe)2.5T 8/3③黒色(Ⅱe)2/1粒(φ0.025-0.15cm)を15-20%含む。

Ⅳ ①赤色(Ⅱa)10Y 2/1 ②シルト③SL ④なし⑤なし⑥赤

①赤色(Ⅱa)10Y 2/1・灰褐色(Ⅱe)2.5T 8/3②赤褐色(Ⅱa)10R 6/0粒(φ0.04-0.06cm)を30-40%含む。

ⅤC 1 ①灰白色(Ⅱa)6/ ②シルト③SL④砂 ⑤砂 ⑥-

ⅤC 2 ①なし②黄褐色(Ⅱe)2.5T 7/4③シルト④SL ⑤砂 ⑥砂 ⑦赤褐色(Ⅱe)2.5T 8/3⑧赤褐色(Ⅱa)10R 8/0粒(φ0.035-0.05cm)を15-20%含む。

ⅤC 3 ①赤褐色(Ⅱc)5R 5/6 ②砂 ③なし④なし⑤赤 ⑥灰褐色(Ⅱe)2.5T 8/3⑦黒色(Ⅱe)2.5T 2/1(φ0.03-0.05cm)を30-40%含む。

ⅤC 4 ①赤褐色(Ⅱc)5Y 8/3 ②砂 ③なし④なし⑤赤 ⑥黒色(Ⅱa)2/1粒(φ0.03-0.05cm)を5-7%含む。

ⅤA ①灰褐色(Ⅱa)10Y 8/1 ②シルト③SL ④砂 ⑤赤 ⑥赤 ⑦灰白色(Ⅱa)10Y 7/1粒(φ0.05-0.15cm)を5-7%含む。

SD-8

ⅡC 4 ①赤褐色(Ⅱc)5Y 8/0②砂 ③なし④なし⑤赤

②赤褐色(Ⅱc)5Y 4/0ベニス(φ0.05-0.1cm)を15-20%含む。黒色(Ⅱe)2.5T 2/1スロリア(φ0.05cm以下)を30-40%含む。IV A層土ブロック(φ10.0cm)を1点含む。

SD-7・10

ⅡC 4 ①黄褐色(Ⅱe)2.5T 8/0②砂 ③なし④なし⑤赤

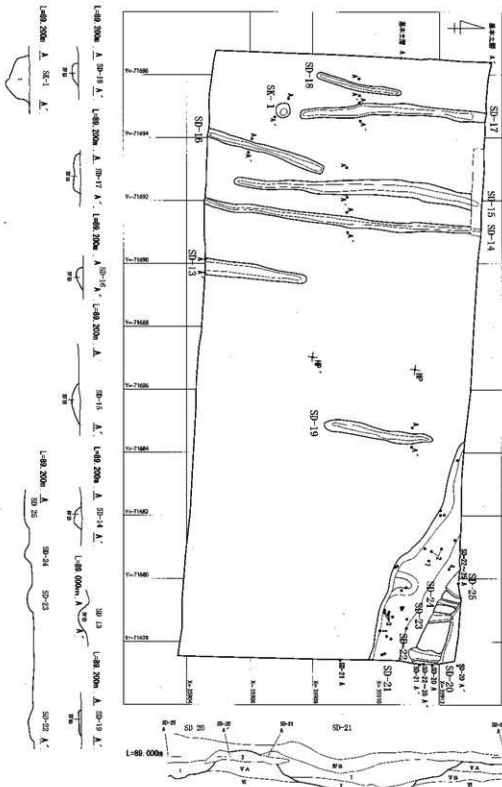
②赤褐色(Ⅱe)2.5Y 4/0ベニス(φ0.05-0.1cm)を15-20%含む。黒色(Ⅱe)2.5T 2/1スロリア(φ0.05cm以下)を30-40%含む。IV A層土ブロック(φ3.0-8.0-12.0cm)を3点含む。

SD-11

ⅡC 4 ①黄褐色(Ⅱe)2.5T 8/0②砂 ③なし④なし⑤赤

②赤褐色(Ⅱe)2.5Y 4/0ベニス(φ0.05-0.1cm)を15-20%含む。黒色(Ⅱe)2.5T 2/1スロリア(φ0.05cm以下)を30-40%含む。IV A層土ブロック(φ5.0-7.0cm)を2点含む。

断面1 ①土質改良(10%以上)の設計土、②砂、③中砂、④中粗砂、⑤粗砂、⑥中粗砂、⑦粗砂、⑧粗砂、⑨粗砂、⑩粗砂、⑪粗砂、⑫粗砂、⑬粗砂、⑭粗砂、⑮粗砂、⑯粗砂、⑰粗砂、⑱粗砂、⑲粗砂、⑳粗砂、㉑粗砂、㉒粗砂、㉓粗砂、㉔粗砂、㉕粗砂、㉖粗砂、㉗粗砂、㉘粗砂、㉙粗砂、㉚粗砂、㉛粗砂、㉜粗砂、㉝粗砂、㉞粗砂、㉟粗砂、㊱粗砂、㊲粗砂、㊳粗砂、㊴粗砂、㊵粗砂、㊶粗砂、㊷粗砂、㊸粗砂、㊹粗砂、㊺粗砂、㊻粗砂、㊼粗砂、㊽粗砂、㊾粗砂、㊿粗砂、
 2 ①粗砂(10%以上)



SP-20 ~ 21
 1 ①粗砂色(10%以上) ②シルト ③中砂 ④中粗砂 ⑤粗砂 ⑥粗砂 ⑦粗砂 ⑧粗砂 ⑨粗砂 ⑩粗砂 ⑪粗砂 ⑫粗砂 ⑬粗砂 ⑭粗砂 ⑮粗砂 ⑯粗砂 ⑰粗砂 ⑱粗砂 ⑲粗砂 ⑳粗砂 ㉑粗砂 ㉒粗砂 ㉓粗砂 ㉔粗砂 ㉕粗砂 ㉖粗砂 ㉗粗砂 ㉘粗砂 ㉙粗砂 ㉚粗砂 ㉛粗砂 ㉜粗砂 ㉝粗砂 ㉞粗砂 ㉟粗砂 ㊱粗砂 ㊲粗砂 ㊳粗砂 ㊴粗砂 ㊵粗砂 ㊶粗砂 ㊷粗砂 ㊸粗砂 ㊹粗砂 ㊺粗砂 ㊻粗砂 ㊼粗砂 ㊽粗砂 ㊾粗砂 ㊿粗砂、
 2 ①粗砂色(10%以上) ②シルト ③中砂 ④中粗砂 ⑤粗砂 ⑥粗砂 ⑦粗砂 ⑧粗砂 ⑨粗砂 ⑩粗砂 ⑪粗砂 ⑫粗砂 ⑬粗砂 ⑭粗砂 ⑮粗砂 ⑯粗砂 ⑰粗砂 ⑱粗砂 ⑲粗砂 ⑳粗砂 ㉑粗砂 ㉒粗砂 ㉓粗砂 ㉔粗砂 ㉕粗砂 ㉖粗砂 ㉗粗砂 ㉘粗砂 ㉙粗砂 ㉚粗砂 ㉛粗砂 ㉜粗砂 ㉝粗砂 ㉞粗砂 ㉟粗砂 ㊱粗砂 ㊲粗砂 ㊳粗砂 ㊴粗砂 ㊵粗砂 ㊶粗砂 ㊷粗砂 ㊸粗砂 ㊹粗砂 ㊺粗砂 ㊻粗砂 ㊼粗砂 ㊽粗砂 ㊾粗砂 ㊿粗砂、
 3 ①粗砂色(10%以上) ②シルト ③中砂 ④中粗砂 ⑤粗砂 ⑥粗砂 ⑦粗砂 ⑧粗砂 ⑨粗砂 ⑩粗砂 ⑪粗砂 ⑫粗砂 ⑬粗砂 ⑭粗砂 ⑮粗砂 ⑯粗砂 ⑰粗砂 ⑱粗砂 ⑲粗砂 ⑳粗砂 ㉑粗砂 ㉒粗砂 ㉓粗砂 ㉔粗砂 ㉕粗砂 ㉖粗砂 ㉗粗砂 ㉘粗砂 ㉙粗砂 ㉚粗砂 ㉛粗砂 ㉜粗砂 ㉝粗砂 ㉞粗砂 ㉟粗砂 ㊱粗砂 ㊲粗砂 ㊳粗砂 ㊴粗砂 ㊵粗砂 ㊶粗砂 ㊷粗砂 ㊸粗砂 ㊹粗砂 ㊺粗砂 ㊻粗砂 ㊼粗砂 ㊽粗砂 ㊾粗砂 ㊿粗砂、

第5図 第2面渡橋平・断面図(平面図S=1:120, 断面図S=1:40)

2. 第2面(V層上面)の遺構

13～19号溝(SD-13～19, 第5圖)

主に調査区の西半ではほぼ南北の方向で検出された。IV B層で埋没している。幅は狭く比較的深い。川砂の堆積は認められなかった。SD-1～12と同様に水路ではないと考えられる。出土遺物は、SD-1～12と同様に第3面由来の古墳時代前期の土師器片が多く、溝に伴う遺物は認められなかった。時期は正確には不明であるが、SD-21の土層断面からSD-13～19を埋没するIV B層がSD-21の埋没後に形成されたと考えられることから、平安時代中期以降As-B降下以前であると考えたい。

20～25号溝(SD-20～25, 第5圖)

調査区の北東隅で検出された。SD-20, 21は北西方向から南東方向に向かい、SD-22～25は南北方向に向かう。SD-20, 21は幅が広く深い。SD-22～25は幅が狭く浅い。部分的な検出のため、正確な形状は不明であるが、SD-20, 21は平行しているかもしれない。出土遺物は、SD-1～19と同様に第3面由来の古墳時代前期の土師器片が多いが、SD-21から自然陸のかかった須恵器蓋片(No. 1)、須恵器坏片(No. 2)、高台皿(No. 3)など溝の埋没中に混入したと推定される遺物が認められた。須恵器坏片(No. 2)は、底部がやや小さく、口縁部が外反する。底部は回転糸切りで未調整である。高台皿(No. 3)は、酸化焙焼成の須恵器ないし土師質土器で、体部が浅く口縁部が外反する。内面は炭素が吸着し黒色を呈する。これらの遺物から、SD-21の埋没年代は9世紀後半から10世紀ごろと考えたい。

1号土坑(SK-1, 第5圖)

調査区の南西部で検出された。IV B層で埋没している。平面形状は円形、断面形状は不整逆台形である。遺物は出土しなかった。時期は不明であるが、検出状況からSD-1～19に近いと考えられる。

3. 第3面(VI層上面)の遺構

1～5号竪穴状遺構(SK-1～5, 第6圖)

当初、遺物が集中し、かつ長方形のプランが観察された箇所を竪穴住居跡として調査を行なった。しかし、遺物を採番して掘り上げた後に掘削を行なったところ、遺構が非常に浅く、明瞭な掘り込みが確認できず、硬化した床面や炉・カマドなど住居と認定できる証拠も認められなかった。よって、これらの遺構を、住居跡ではなく竪穴状遺構として報告する。

SK-1は、調査区の西壁際の北端寄りにて検出された。VA層で埋没している。SK-6と重複するが、埋没土に違いがなく、切り合い関係は不明である。遺構の大半が調査区外にあるため、正確な形状は不明であるが、方形ないし長方形を呈すると推定される。深さは、最深で10cmである。遺物の出土はわずか3点であり、実測に耐えうる土師器口縁部片(No. 1)のみ掲載した。

SK-2は、調査区の北壁際の中央にて検出された。VA、VB層で埋没している。SK-1、SK-5と重複し、これに切られる。SK-5とは埋没土に大きな違いがない。SK-5に切られ、北半が調査区外にあるため、正確な形状は不明であるが、隅丸方形ないし隅長方形を呈すると推定される。深さは、最深で14cmである。南西辺際に灰層が認められた。数点出土した遺物のうち、土師器S字壺片(No. 1～4)、須恵器坏底部片(No. 5)を掲載した。

SK-3は、調査区の南壁際の東寄りにて検出された。VA、VB層で埋没している。SK-4、SD-28と重複するが、埋没土に違いがなく、切り合い関係は不明である。北辺を試験トレンチに切られている。試験トレンチに切られ、南半が調査区外にあるため、正確な形状は不明であるが、方形ないし長方形を呈すると推定される。深さは、最深で15cmである。本調査地点で唯一遺物が集積された状態で出土しており、かなりの程度まで復元できた(No. 2～4, 6, 7)。百数十点出土した遺物のうち、土師器S字壺(No. 1, 2, 4, 8)、土師器直口壺(No. 3, 7, 9)、土師器差(No. 5, 6)、須恵器坏底部片(No. 10)を掲載した。

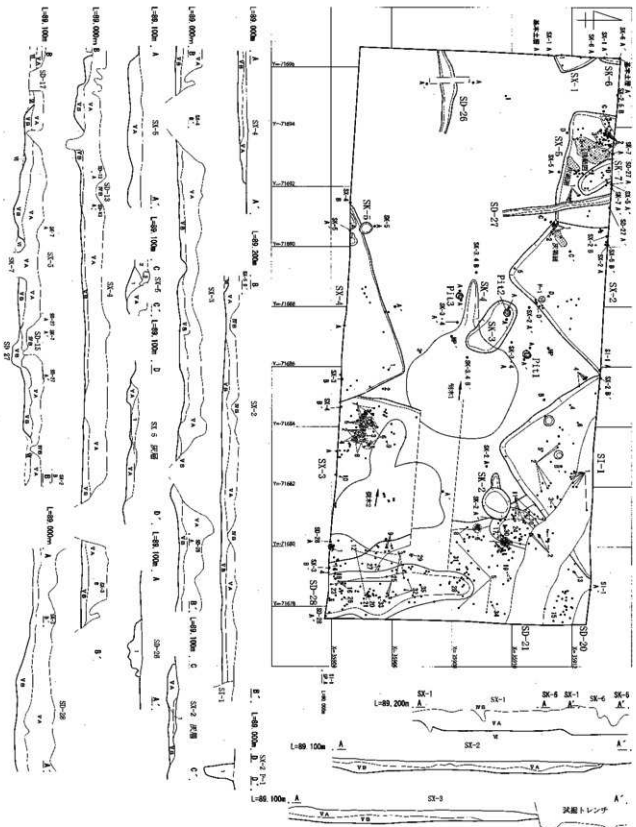
SK-4は、調査区の南壁際の中央にて検出された。VA、VB層で埋没している。SK-3と重複するが、埋没土に違いがなく、切り合い関係は不明である。SK-5と重複し、これに切られる。南半が調査区外にあるため正確な形状は不明であるが、方形ないし長方形を呈すると推定される。深さは、最深で10cmである。西隅に小穴を2基有する。出土した遺物が比較的少なく、実測に耐えうる土師器S字壺口縁部片(No. 1)のみ掲載した。

SK-5は、調査区の北壁際の西寄りにて検出された。VA、VB層で埋没している。SK-2と重複し、これを切るが、埋没土に大きな違いがない。SD-27、SK-7に切られる。北半が調査区外にあるため、正確な形状は不明であるが、隅丸方形ないし隅長方形を呈すると推定される。深さは、最深で16cmである。中央にて灰層が認められた。西辺際から被熱した炭層のある砂岩が出土したが、周辺に土に焼土は認められなかった。百数十点出土した遺物のうち、土師器直口壺(No. 1)、土師器台付壺(No. 2)、土師器S字壺(No. 3, 4)、土師器小瓦底土器(No. 5)を掲載した。2～7号土坑(SK-2～7, 第6～7圖)

SK-2は調査区の東部で検出された。平面形状は楕円形、断面形状は浅い碗形である。SD-28を切る。西方向に帯状に伸びるため、樹木の可能性がある。

SK-3は調査区の中央部で検出された。平面形状はやや不整な長楕円形、断面形状は浅い逆台形である。SK-4を切る。

SK-4は調査区の中央部で検出された。SK-3に切られる。掘削した結果、東に隣接する樹木の幹部分と判明した。



第6図 第3面遺構平・断面図 (平面図S=1:120, 断面図S=1:40)

第6図 土層注記

SK-2 P-1

1 ①黒灰色 (Hae10YR 4/1) ②シルト③CL④中⑤中⑥軟⑦黒色 (Hae10YR 2/1) ブロック (φ0.5-1.0cm) を6-7%含む。

SK-2・5 層厚

1 ①黒色 (Hae2 2/2) ②シルト③CL④中⑤中⑥しょう⑦-

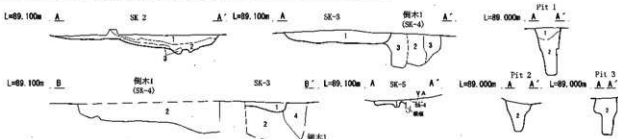
2 ①黒褐色 (Hae7.5Y 3/1) ②シルト③CL④中⑤中⑥軟 ⑦砂礫 (φ6.7cm) を3-5%含む。灰白色 (Hae10YR 8/1) 砂子 (φ0.04-0.14cm) を5-7%含む。

SK-5 SP-C

1 ①灰褐色 (Hae7.5YR 5/2) ②シルト③SL④中⑤中⑥軟⑦明茶褐色 (Hae5YR 2/0) シルトブロック (φ0.5-1.0cm) を3-5%含む。

SD-26

1 ①黒色 (Hae10YR 2/1) ②シルト③SL④軟⑤硬⑥軟⑦灰白色 (Hae10YR 8/1) 砂子 (φ0.05-0.16cm) を6-7%含む。



SK-2

1 ①灰褐色 (Hae2.5YR 6/1) ②シルト③CL④軟⑤硬⑥中⑦赤褐色 (Hae10YR 8/1) 砂子 (φ0.05-0.5cm) を10-15%含む

2 ①茶褐色 (Hae2.5YR 3/1) ②シルト③SL④軟⑤硬⑥赤黄 ⑦灰褐色 (Hae2.5YR/3) 砂子 (φ0.05-0.6cm) を3-5%含む。

3 ①黒褐色 (Hae2.9Y 3/1) ②シルト③SL④硬⑤中⑥軟

④灰褐色 (Hae2.5YR/4) ロームブロック (φ0.5-1.0cm) を6-7%含む。ふいす褐色 (Hae10YR 6/3) ブロック (φ1.0-2.0cm) を20-30%含む。

SK-3・4

1 ①黒褐色 (Hae2.5Y 3/1) ②シルト③SL④硬⑤中⑥軟

②灰白色 (Hae10YR 8/1) 砂子 (φ0.045-0.1cm) を2-3%含む。浅灰色 (Hae2.6Y7/3) シルトブロック (φ4.0-12.0cm) を20-30%含む。

2 ①黒色 (Hae10YR 2/1) ②シルト③CL④中⑤中⑥しょう⑦灰白色 (Hae10YR 8/1) シルト粒了CL (φ0.07-0.2cm) を3-5%含む。

3 ①黒褐色 (Hae2.3YR 2/0) ②シルト③CL④中⑤中⑥軟 ⑦灰白色 (Hae10YR 8/1) 砂子 (φ0.07-0.2cm) を3-5%含む。

4 ①ふいす褐色 (Hae10YR 7/3) ②シルト③CL④中⑤中⑥しょう⑦-

SK-6

1 ①黒色 (Hae10YR 2/1) ②シルト③CL④中⑤中⑥軟⑦灰白色 (Hae10YR 7/1) 砂子 (φ0.07-0.21cm) を1-2%含む。

Pit1~3

1 ①黒褐色 (Hae10YR 5/1) ②シルト③CL④軟⑤中⑥軟 ⑦明黄褐色 (Hae10YR 6/0) ロームブロック (φ1.0-2.0cm) を5-7%含む。

2 ①黒色 (Hae10YR 2/1) ②シルト③CL④軟⑤中⑥しょう⑦明黄褐色 (Hae10YR 6/0) ロームブロック (φ1.0-2.0cm) を5-7%含む。

第7図 第3面遺構断面図 (S=1:40)

SK-5は調査区の南壁際の際の中央にて検出された。平面形状は楕円形、断面形状は逆凸形である。SK-4を切る。

SK-6は調査区の北西隅で検出された。V A層で埋没している。SK-1と重複するが埋没土に違いがなく、切り合い関係は不明である。大平が調査区外にあるため、正確な形状は不明である。曲線状のプランが確認されたため土坑として調査したが、掘削の結果、明瞭な掘り込みが認められた。遺構の壁の下半と底面が調査区外に位置するため、底面の状態は不明であるが、住居跡の可能性も考えられる。

SK-7は調査区の北西部で検出された。V A層で埋没している。平面形状は長楕円形、断面形状は逆台形である。SK-5を切る。遺物は、SK-5由来の古墳時代前期の土師器が多く、土坑に伴う遺物は認められなかった。

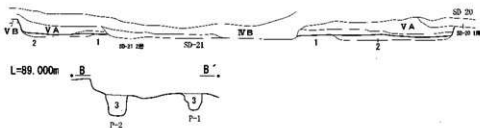
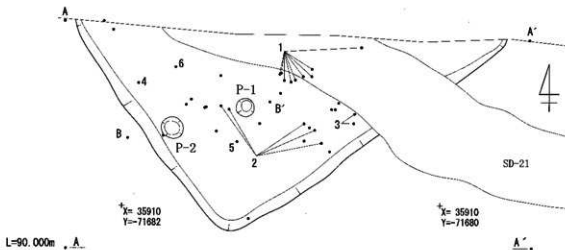
26～27号溝 (SD-26～27、第6図)

SD-26は調査区の西端で検出された。幅22～54cm、長さ278cmで、西壁から東方向にやや曲線状に伸びる。深さは16cmである。東端は浅くなって断絶する。

SD-27は調査区の北壁際の際の西寄りにて検出された。幅21～28cm、長さ364cmで、北壁から南南東方向に伸びる。深さは12cmである。南端は浅くなって断絶する。SK-5を切る。

28号溝 (SD-28、第6図)

調査区の東端で検出された。残存幅92～158cm、長さ495cmで、南壁から北北西方向に伸びる。深さは12～30cmである。調査区の東端で検出されたため、東岸が検出されず、規模は不明である。SI-1、SD-20、21、SK-2に切れ、SK-3を切る。当初、遺物の分布状況と試掘トレンチにおける埋没土のプランから、2軒の窪穴住居跡として調査したが、遺物を採番して採り上げた後に行なった掘削において、床面が検出されず、住居間を越えて伸びる溝状の低い落ち込みが認められたことから、2軒の住居跡ではなく1条の溝であることが判明した。本遺構は、最も大量の遺物を出土し、破片数にして数百点を数える。SK-3出土遺物のようかなりの程度まで復元できた遺物も存在する (No. 1, 29)。土師器S字壺 (No. 9～25)を中心に35点を掲載した。掲載した遺物はS字壺の他は、土師器蓋 (No. 1～4)、二重口鉢蓋 (No. 5)、蓋部 (No. 6～8)、付冪蓋 (No. 26～28)、小型鉢 (No. 29)、高杯 (No. 30)、杯 (No. 31)、小型丸底土器 (No. 32)、小型器台 (No. 33、



- 1 ①褐色土(Shs10E 4/1) ②シルト③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿㋀㋁㋂㋃㋄㋅㋆㋇㋈㋉㋊㋋㋌㋍㋎㋏㋐㋑㋒㋓㋔㋕㋖㋗㋘㋙㋚㋛㋜㋝㋞㋟㋠㋡㋢㋣㋤㋥㋦㋧㋨㋩㋪㋫㋬㋭㋮㋯㋰㋱㋲㋳㋴㋵㋶㋷㋸㋹㋺㋻㋼㋽㋾㋿㌀㌁㌂㌃㌄㌅㌆㌇㌈㌉㌊㌋㌌㌍㌎㌏㌐㌑㌒㌓㌔㌕㌖㌗㌘㌙㌚㌛㌜㌝㌞㌟㌠㌡㌢㌣㌤㌥㌦㌧㌨㌩㌪㌫㌬㌭㌮㌯㌰㌱㌲㌳㌴㌵㌶㌷㌸㌹㌺㌻㌼㌽㌾㌿㍀㍁㍂㍃㍄㍅㍆㍇㍈㍉㍊㍋㍌㍍㍎㍏㍐㍑㍒㍓㍔㍕㍖㍗㍘㍙㍚㍛㍜㍝㍞㍟㍠㍡㍢㍣㍤㍥㍦㍧㍨㍩㍪㍫㍬㍭㍮㍯㍰㍱㍲㍳㍴㍵㍶㍷㍸㍹㍺㍻㍼㍽㍾㍿㏀㏁㏂㏃㏄㏅㏆㏇㏈㏉㏊㏋㏌㏍㏎㏏㏐㏑㏒㏓㏔㏕㏖㏗㏘㏙㏚㏛㏜㏝㏞㏟㏠㏡㏢㏣㏤㏥㏦㏧㏨㏩㏪㏫㏬㏭㏮㏯㏰㏱㏲㏳㏴㏵㏶㏷㏸㏹㏺㏻㏼㏽㏾㏿㐀㐁㐂㐃㐄㐅㐆㐇㐈㐉㐊㐋㐌㐍㐎㐏㐐㐑㐒㐓㐔㐕㐖㐗㐘㐙㐚㐛㐜㐝㐞㐟㐠㐡㐢㐣㐤㐥㐦㐧㐨㐩㐪㐫㐬㐭㐮㐯㐰㐱㐲㐳㐴㐵㐶㐷㐸㐹㐺㐻㐼㐽㐾㐿㑀㑁㑂㑃㑄㑅㑆㑇㑈㑉㑊㑋㑌㑍㑎㑏㑐㑑㑒㑓㑔㑕㑖㑗㑘㑙㑚㑛㑜㑝㑞㑟㑠㑡㑢㑣㑤㑥㑦㑧㑨㑩㑪㑫㑬㑭㑮㑯㑰㑱㑲㑳㑴㑵㑶㑷㑸㑹㑺㑻㑼㑽㑾㑿㒀㒁㒂㒃㒄㒅㒆㒇㒈㒉㒊㒋㒌㒍㒎㒏㒐㒑㒒㒓㒔㒕㒖㒗㒘㒙㒚㒛㒜㒝㒞㒟㒠㒡㒢㒣㒤㒥㒦㒧㒨㒩㒪㒫㒬㒭㒮㒯㒰㒱㒲㒳㒴㒵㒶㒷㒸㒹㒺㒻㒼㒽㒾㒿㓀㓁㓂㓃㓄㓅㓆㓇㓈㓉㓊㓋㓌㓍㓎㓏㓐㓑㓒㓓㓔㓕㓖㓗㓘㓙㓚㓛㓜㓝㓞㓟㓠㓡㓢㓣㓤㓥㓦㓧㓨㓩㓪㓫㓬㓭㓮㓯㓰㓱㓲㓳㓴㓵㓶㓷㓸㓹㓺㓻㓼㓽㓾㓿㔀㔁㔂㔃㔄㔅㔆㔇㔈㔉㔊㔋㔌㔍㔎㔏㔐㔑㔒㔓㔔㔕㔖㔗㔘㔙㔚㔛㔜㔝㔞㔟㔠㔡㔢㔣㔤㔥㔦㔧㔨㔩㔪㔫㔬㔭㔮㔯㔰㔱㔲㔳㔴㔵㔶㔷㔸㔹㔺㔻㔼㔽㔾㔿㕀㕁㕂㕃㕄㕅㕆㕇㕈㕉㕊㕋㕌㕍㕎㕏㕐㕑㕒㕓㕔㕕㕖㕗㕘㕙㕚㕛㕜㕝㕞㕟㕠㕡㕢㕣㕤㕥㕦㕧㕨㕩㕪㕫㕬㕭㕮㕯㕰㕱㕲㕳㕴㕵㕶㕷㕸㕹㕺㕻㕼㕽㕾㕿㖀㖁㖂㖃㖄㖅㖆㖇㖈㖉㖊㖋㖌㖍㖎㖏㖐㖑㖒㖓㖔㖕㖖㖗㖘㖙㖚㖛㖜㖝㖞㖟㖠㖡㖢㖣㖤㖥㖦㖧㖨㖩㖪㖫㖬㖭㖮㖯㖰㖱㖲㖳㖴㖵㖶㖷㖸㖹㖺㖻㖼㖽㖾㖿㗀㗁㗂㗃㗄㗅㗆㗇㗈㗉㗊㗋㗌㗍㗎㗏㗐㗑㗒㗓㗔㗕㗖㗗㗘㗙㗚㗛㗜㗝㗞㗟㗠㗡㗢㗣㗤㗥㗦㗧㗨㗩㗪㗫㗬㗭㗮㗯㗰㗱㗲㗳㗴㗵㗶㗷㗸㗹㗺㗻㗼㗽㗾㗿㘀㘁㘂㘃㘄㘅㘆㘇㘈㘉㘊㘋㘌㘍㘎㘏㘐㘑㘒㘓㘔㘕㘖㘗㘘㘙㘚㘛㘜㘝㘞㘟㘠㘡㘢㘣㘤㘥㘦㘧㘨㘩㘪㘫㘬㘭㘮㘯㘰㘱㘲㘳㘴㘵㘶㘷㘸㘹㘺㘻㘼㘽㘾㘿㙀㙁㙂㙃㙄㙅㙆㙇㙈㙉㙊㙋㙌㙍㙎㙏㙐㙑㙒㙓㙔㙕㙖㙗㙘㙙㙚㙛㙜㙝㙞㙟㙠㙡㙢㙣㙤㙥㙦㙧㙨㙩㙪㙫㙬㙭㙮㙯㙰㙱㙲㙳㙴㙵㙶㙷㙸㙹㙺㙻㙼㙽㙾㙿㚀㚁㚂㚃㚄㚅㚆㚇㚈㚉㚊㚋㚌㚍㚎㚏㚐㚑㚒㚓㚔㚕㚖㚗㚘㚙㚚㚛㚜㚝㚞㚟㚠㚡㚢㚣㚤㚥㚦㚧㚨㚩㚪㚫㚬㚭㚮㚯㚰㚱㚲㚳㚴㚵㚶㚷㚸㚹㚺㚻㚼㚽㚾㚿㜀㜁㜂㜃㜄㜅㜆㜇㜈㜉㜊㜋㜌㜍㜎㜏㜐㜑㜒㜓㜔㜕㜖㜗㜘㜙㜚㜛㜜㜝㜞㜟㜠㜡㜢㜣㜤㜥㜦㜧㜨㜩㜪㜫㜬㜭㜮㜯㜰㜱㜲㜳㜴㜵㜶㜷㜸㜹㜺㜻㜼㜽㜾㜿㝀㝁㝂㝃㝄㝅㝆㝇㝈㝉㝊㝋㝌㝍㝎㝏㝐㝑㝒㝓㝔㝕㝖㝗㝘㝙㝚㝛㝜㝝㝞㝟㝠㝡㝢㝣㝤㝥㝦㝧㝨㝩㝪㝫㝬㝭㝮㝯㝰㝱㝲㝳㝴㝵㝶㝷㝸㝹㝺㝻㝼㝽㝾㝿㞀㞁㞂㞃㞄㞅㞆㞇㞈㞉㞊㞋㞌㞍㞎㞏㞐㞑㞒㞓㞔㞕㞖㞗㞘㞙㞚㞛㞜㞝㞞㞟㞠㞡㞢㞣㞤㞥㞦㞧㞨㞩㞪㞫㞬㞭㞮㞯㞰㞱㞲㞳㞴㞵㞶㞷㞸㞹㞺㞻㞼㞽㞾㞿㟀㟁㟂㟃㟄㟅㟆㟇㟈㟉㟊㟋㟌㟍㟎㟏㟐㟑㟒㟓㟔㟕㟖㟗㟘㟙㟚㟛㟜㟝㟞㟟㟠㟡㟢㟣㟤㟥㟦㟧㟨㟩㟪㟫㟬㟭㟮㟯㟰㟱㟲㟳㟴㟵㟶㟷㟸㟹㟺㟻㟼㟽㟾㟿㠀㠁㠂㠃㠄㠅㠆㠇㠈㠉㠊㠋㠌㠍㠎㠏㠐㠑㠒㠓㠔㠕㠖㠗㠘㠙㠚㠛㠜㠝㠞㠟㠠㠡㠢㠣㠤㠥㠦㠧㠨㠩㠪㠫㠬㠭㠮㠯㠰㠱㠲㠳㠴㠵㠶㠷㠸㠹㠺㠻㠼㠽㠾㠿㡀㡁㡂㡃㡄㡅㡆㡇㡈㡉㡊㡋㡌㡍㡎㡏㡐㡑㡒㡓㡔㡕㡖㡗㡘㡙㡚㡛㡜㡝㡞㡟㡠㡡㡢㡣㡤㡥㡦㡧㡨㡩㡪㡫㡬㡭㡮㡯㡰㡱㡲㡳㡴㡵㡶㡷㡸㡹㡺㡻㡼㡽㡾㡿㢀㢁㢂㢃㢄㢅㢆㢇㢈㢉㢊㢋㢌㢍㢎㢏㢐㢑㢒㢓㢔㢕㢖㢗㢘㢙㢚㢛㢜㢝㢞㢟㢠㢡㢢㢣㢤㢥㢦㢧㢨㢩㢪㢫㢬㢭㢮㢯㢰㢱㢲㢳㢴㢵㢶㢷㢸㢹㢺㢻㢼㢽㢾㢿㣀㣁㣂㣃㣄㣅㣆㣇㣈㣉㣊㣋㣌㣍㣎㣏㣐㣑㣒㣓㣔㣕㣖㣗㣘㣙㣚㣛㣜㣝㣞㣟㣠㣡㣢㣣㣤㣥㣦㣧㣨㣩㣪㣫㣬㣭㣮㣯㣰㣱㣲㣳㣴㣵㣶㣷㣸㣹㣺㣻㣼㣽㣾㣿㤀㤁㤂㤃㤄㤅㤆㤇㤈㤉㤊㤋㤌㤍㤎㤏㤐㤑㤒㤓㤔㤕㤖㤗㤘㤙㤚㤛㤜㤝㤞㤟㤠㤡㤢㤣㤤㤥㤦㤧㤨㤩㤪㤫㤬㤭㤮㤯㤰㤱㤲㤳㤴㤵㤶㤷㤸㤹㤺㤻㤼㤽㤾㤿㥀㥁㥂㥃㥄㥅㥆㥇㥈㥉㥊㥋㥌㥍㥎㥏㥐㥑㥒㥓㥔㥕㥖㥗㥘㥙㥚㥛㥜㥝㥞㥟㥠㥡㥢㥣㥤㥥㥦㥧㥨㥩㥪㥫㥬㥭㥮㥯㥰㥱㥲㥳㥴㥵㥶㥷㥸㥹㥺㥻㥼㥽㥾㥿㦀㦁㦂㦃㦄㦅㦆㦇㦈㦉㦊㦋㦌㦍㦎㦏㦐㦑㦒㦓㦔㦕㦖㦗㦘㦙㦚㦛㦜㦝㦞㦟㦠㦡㦢㦣㦤㦥㦦㦧㦨㦩㦪㦫㦬㦭㦮㦯㦰㦱㦲㦳㦴㦵㦶㦷㦸㦹㦺㦻㦼㦽㦾㦿㧀㧁㧂㧃㧄㧅㧆㧇㧈㧉㧊㧋㧌㧍㧎㧏㧐㧑㧒㧓㧔㧕㧖㧗㧘㧙㧚㧛㧜㧝㧞㧟㧠㧡㧢㧣㧤㧥㧦㧧㧨㧩㧪㧫㧬㧭㧮㧯㧰㧱㧲㧳㧴㧵㧶㧷㧸㧹㧺㧻㧼㧽㧾㧿㨀㨁㨂㨃㨄㨅㨆㨇㨈㨉㨊㨋㨌㨍㨎㨏㨐㨑㨒㨓㨔㨕㨖㨗㨘㨙㨚㨛㨜㨝㨞㨟㨠㨡㨢㨣㨤㨥㨦㨧㨨㨩㨪㨫㨬㨭㨮㨯㨰㨱㨲㨳㨴㨵㨶㨷㨸㨹㨺㨻㨼㨽㨾㨿㩀㩁㩂㩃㩄㩅㩆㩇㩈㩉㩊㩋㩌㩍㩎㩏㩐㩑㩒㩓㩔㩕㩖㩗㩘㩙㩚㩛㩜㩝㩞㩟㩠㩡㩢㩣㩤㩥㩦㩧㩨㩩㩪㩫㩬㩭㩮㩯㩰㩱㩲㩳㩴㩵㩶㩷㩸㩹㩺㩻㩼㩽㩾㩿㪀㪁㪂㪃㪄㪅㪆㪇㪈㪉㪊㪋㪌㪍㪎㪏㪐㪑㪒㪓㪔㪕㪖㪗㪘㪙㪚㪛㪜㪝㪞㪟㪠㪡㪢㪣㪤㪥㪦㪧㪨㪩㪪㪫㪬㪭㪮㪯㪰㪱㪲㪳㪴㪵㪶㪷㪸㪹㪺㪻㪼㪽㪾㪿㫀㫁㫂㫃㫄㫅㫆㫇㫈㫉㫊㫋㫌㫍㫎㫏㫐㫑㫒㫓㫔㫕㫖㫗㫘㫙㫚㫛㫜㫝㫞㫟㫠㫡㫢㫣㫤㫥㫦㫧㫨㫩㫪㫫㫬㫭㫮㫯㫰㫱㫲㫳㫴㫵㫶㫷㫸㫹㫺㫻㫼㫽㫾㫿㬀㬁㬂㬃㬄㬅㬆㬇㬈㬉㬊㬋㬌㬍㬎㬏㬐㬑㬒㬓㬔㬕㬖㬗㬘㬙㬚㬛㬜㬝㬞㬟㬠㬡㬢㬣㬤㬥㬦㬧㬨㬩㬪㬫㬬㬭㬮㬯㬰㬱㬲㬳㬴㬵㬶㬷㬸㬹㬺㬻㬼㬽㬾㬿㭀㭁㭂㭃㭄㭅㭆㭇㭈㭉㭊㭋㭌㭍㭎㭏㭐㭑㭒㭓㭔㭕㭖㭗㭘㭙㭚㭛㭜㭝㭞㭟㭠㭡㭢㭣㭤㭥㭦㭧㭨㭩㭪㭫㭬㭭㭮㭯㭰㭱㭲㭳㭴㭵㭶㭷㭸㭹㭺㭻㭼㭽㭾㭿㮀㮁㮂㮃㮄㮅㮆㮇㮈㮉㮊㮋㮌㮍㮎㮏㮐㮑㮒㮓㮔㮕㮖㮗㮘㮙㮚㮛㮜㮝㮞㮟㮠㮡㮢㮣㮤㮥㮦㮧㮨㮩㮪㮫㮬㮭㮮㮯㮰㮱㮲㮳㮴㮵㮶㮷㮸㮹㮺㮻㮼㮽㮾㮿㯀㯁㯂㯃㯄㯅㯆㯇㯈㯉㯊㯋㯌㯍㯎㯏㯐㯑㯒㯓㯔㯕㯖㯗㯘㯙㯚㯛㯜㯝㯞㯟㯠㯡㯢㯣㯤㯥㯦㯧㯨㯩㯪㯫㯬㯭㯮㯯㯰㯱㯲㯳㯴㯵㯶㯷㯸㯹㯺㯻㯼㯽㯾㯿㰀㰁㰂㰃㰄㰅㰆㰇㰈㰉㰊㰋㰌㰍㰎㰏㰐㰑㰒㰓㰔㰕㰖㰗㰘㰙㰚㰛㰜㰝㰞㰟㰠㰡㰢㰣㰤㰥㰦㰧㰨㰩㰪㰫㰬㰭㰮㰯㰰㰱㰲㰳㰴㰵㰶㰷㰸㰹㰺㰻㰼㰽㰾㰿㱀㱁㱂㱃㱄㱅㱆㱇㱈㱉㱊㱋㱌㱍㱎㱏㱐㱑㱒㱓㱔㱕㱖㱗㱘㱙㱚㱛㱜㱝㱞㱟㱠㱡㱢㱣㱤㱥㱦㱧㱨㱩㱪㱫㱬㱭㱮㱯㱰㱱㱲㱳㱴㱵㱶㱷㱸㱹㱺㱻㱼㱽㱾㱿㲀㲁㲂㲃㲄㲅㲆㲇㲈㲉㲊㲋㲌㲍㲎㲏㲐㲑㲒㲓㲔㲕㲖㲗㲘㲙㲚㲛㲜㲝㲞㲟㲠㲡㲢㲣㲤㲥㲦㲧㲨㲩㲪㲫㲬㲭㲮㲯㲰㲱㲲㲳㲴㲵㲶㲷㲸㲹㲺㲻㲼㲽㲾㲿㳀㳁㳂㳃㳄㳅㳆㳇㳈㳉㳊㳋㳌㳍㳎㳏㳐㳑㳒㳓㳔㳕㳖㳗㳘㳙㳚㳛㳜㳝㳞㳟㳠㳡㳢㳣㳤㳥㳦㳧㳨㳩㳪㳫㳬㳭㳮㳯㳰㳱㳲㳳㳴㳵㳶㳷㳸㳹㳺㳻㳼㳽㳾㳿㴀㴁㴂㴃㴄㴅㴆㴇㴈㴉㴊㴋㴌㴍㴎㴏㴐㴑㴒㴓㴔㴕㴖㴗㴘㴙㴚㴛㴜㴝㴞㴟㴠㴡㴢㴣㴤㴥㴦㴧㴨㴩㴪㴫㴬㴭㴮㴯㴰㴱㴲㴳㴴㴵㴶㴷㴸㴹㴺㴻㴼㴽㴾㴿㵀㵁㵂㵃㵄㵅㵆㵇㵈㵉㵊㵋㵌㵍㵎㵏㵐㵑㵒㵓㵔㵕㵖㵗㵘㵙㵚㵛㵜㵝㵞㵟㵠㵡㵢㵣㵤㵥㵦㵧㵨㵩㵪㵫㵬㵭㵮㵯㵰㵱㵲㵳㵴㵵㵶㵷㵸㵹㵺㵻㵼㵽㵾㵿㶀㶁㶂㶃㶄㶅㶆㶇㶈㶉㶊㶋㶌㶍㶎㶏㶐㶑㶒㶓㶔㶕㶖㶗㶘㶙㶚㶛㶜㶝㶞㶟㶠㶡㶢㶣㶤㶥㶦㶧㶨㶩㶪㶫㶬㶭㶮㶯㶰㶱㶲㶳㶴㶵㶶㶷㶸㶹㶺㶻㶼㶽㶾㶿㷀㷁㷂㷃㷄㷅㷆㷇㷈㷉㷊㷋㷌㷍㷎㷏㷐㷑㷒㷓㷔㷕㷖㷗㷘㷙㷚㷛㷜㷝㷞㷟㷠㷡㷢㷣㷤㷥㷦㷧㷨㷩㷪㷫㷬㷭㷮㷯㷰㷱㷲㷳㷴㷵㷶㷷㷸㷹㷺㷻㷼㷽㷾㷿㸀㸁㸂㸃㸄㸅㸆㸇㸈㸉㸊㸋㸌㸍㸎㸏㸐㸑㸒㸓㸔㸕㸖㸗㸘㸙㸚㸛㸜㸝㸞㸟㸠㸡㸢㸣㸤㸥㸦㸧㸨㸩㸪㸫㸬㸭㸮㸯㸰㸱㸲㸳㸴㸵㸶㸷㸸㸹㸺㸻㸼㸽㸾㸿㹀㹁㹂㹃㹄㹅㹆㹇㹈㹉㹊㹋㹌㹍㹎㹏㹐㹑㹒㹓㹔㹕㹖㹗㹘㹙㹚㹛㹜㹝㹞㹟㹠㹡㹢㹣㹤㹥㹦㹧㹨㹩㹪㹫㹬㹭㹮㹯㹰㹱㹲㹳㹴㹵㹶㹷㹸㹹㹺㹻㹼㹽㹾㹿㺀㺁㺂㺃㺄㺅㺆㺇㺈㺉㺊㺋㺌㺍㺎㺏㺐㺑㺒㺓㺔㺕㺖㺗㺘㺙㺚㺛㺜㺝㺞㺟㺠㺡㺢㺣㺤㺥㺦㺧㺨㺩㺪㺫㺬㺭㺮㺯㺰㺱㺲㺳㺴㺵㺶㺷㺸㺹㺺㺻㺼㺽㺾㺿㻀㻁㻂㻃㻄㻅㻆㻇㻈㻉㻊㻋㻌㻍㻎㻏㻐㻑㻒㻓㻔㻕㻖㻗㻘㻙㻚㻛㻜㻝㻞㻟㻠㻡㻢㻣㻤㻥㻦㻧㻨㻩㻪㻫㻬㻭㻮㻯㻰㻱㻲㻳㻴㻵㻶㻷㻸㻹㻺㻻㻼㻽㻾㻿㼀㼁㼂㼃㼄㼅㼆㼇㼈㼉㼊㼋㼌㼍㼎㼏㼐㼑㼒㼓㼔㼕㼖㼗㼘㼙㼚㼛㼜㼝㼞㼟㼠㼡㼢㼣㼤㼥㼦㼧㼨㼩㼪㼫㼬㼭㼮㼯㼰㼱㼲㼳㼴㼵㼶㼷㼸㼹㼺㼻㼼㼽㼾㼿㽀㽁㽂㽃㽄㽅㽆㽇㽈㽉㽊㽋㽌㽍㽎㽏㽐㽑㽒㽓㽔㽕㽖㽗㽘㽙㽚㽛㽜㽝㽞㽟㽠㽡㽢㽣㽤㽥㽦㽧㽨㽩㽪㽫㽬㽭㽮㽯㽰㽱㽲㽳㽴㽵㽶㽷㽸㽹㽺㽻㽼㽽㽾㽿㿀㿁㿂㿃㿄㿅㿆㿇㿈㿉㿊㿋㿌㿍㿎㿏㿐㿑㿒㿓㿔㿕㿖㿗㿘㿙㿚㿛㿜㿝㿞㿟㿠㿡㿢㿣㿤㿥㿦㿧㿨㿩㿪㿫㿬㿭㿮㿯㿰㿱㿲㿳㿴㿵㿶㿷㿸㿹㿺㿻㿼㿽㿾㿿

第8図 SI-1半・断面図 (S=I:60)

34)、須恵器坏 (No. 35) である。これらの遺物の中で最も新しいのは須恵器坏 (No. 35) であり、口縁部が外反するところから9世紀後半とみられる。次に新しいものは土師器坏 (No. 31) で、丸い底部にヘラクズリ調整を施され、底部と口縁部との境に稜を有し、口縁部が内傾する、いわゆる模倣坏であり、6世紀と見られる。いずれも埋没土中の高い位置からの出土であり、SD-28の完全な埋没がかなり下ることの証かもしれない。主たる遺物は、S字甕をはじめとして古墳時代前期の遺物である。S字甕は、口縁部から肩部までの復元のため正確ではないが、肩部に横位クシガキがなく、口縁部の上段が長く口唇部の内側が平坦か沈線状を呈し、頸部から肩部への張り出しから、最大径を胴上半にもつもの (No. 9、10、14、19など) と胴中央近くにもつもの (No. 11、12、15、24など) とに大別される。前者は第1次調査地点のAb1・2類、後者はAb2・3類に該当し、概ね2段階から4段階古相 (大木2007) に相当すると考えている。

1号竪穴住居跡 (SI-1、第8図)

位置 座標 (X=35909、Y=71678) と座標 (X=35913、Y=71686) の間に位置する。

形態 南東辺が全長550.0cm、方位N-55°-E、南西辺が残存長430.0cm、方位N-36°-W。平面形状は、北半分が調査区外のため断定できないが、東西もしくは南北に長い隅丸長方形を呈すると推定される。壁は上方が外に向かってやや開き、壁溝は検出されなかった。深さは21~27cm、床面は全体的に礫化している。

施設 中央部はSD-21に破壊され、北半分が調査区外であるため、炉ないしカマドの有無は不明である。後述する帰属時期から、カマドのある住居跡と推定される。小穴が2基検出されており、対角線上に位置するP-1が柱穴と考えられる。南西壁際のP-2の機能は不明であるが、壁際で検出されていることから出入り口に係わるものかもしれない。貯蔵穴は検出されなかった。

概要 SD-21に切られ、SX-2、SD-28を切る。住居の埋没土は二層に分かれる。上層は基本土層のVA層で、埋没土の大半を占める。下層は上層にロームブロックが混入した層厚の薄い層である。埋没土の堆積状況から人為的に埋め戻されたものと判断した。ローム層を掘り込んで作られており、ロームと黒色土の混土で整地されて床面が形成されている。掘り方の形状は、湧水のため正確な形状を復元することがかなわなかったが、土層断面から中央部が高く壁際が低い断面凸形を呈していると推測される。

遺物 原位置と認められる遺物の出土はなく、埋没土からS字甕を主とする古墳時代前期の土師器片が主体的に出土している。本報告では、このうち、土師器長胴甕 (No.1・2)、須恵器坏 (No.3)、土師器S字甕 (No.4・5)、土師器高坏 (No.6)、土師器小型器台 (No.7) を

掲載している。掲載した遺物の中で最も新しいものは、9世紀代と考えられる須志器坪(No.3)であるが、後述の理由から、本来SD-21出土の遺物と考えている。次に新しい遺物は、土師器長脚甕(No.1・2)である。特にNo.1は、口縁部が短く外反し、胴部に膨らみがなく、縦位のヘラケズリが施されていることから、6世紀末～7世紀初め*と考えられる。またその大半がSI-1の埋没土から出土しているため、SI-1の埋め戻し時に廃棄された遺物と推定される。残りの遺物(No.4～7)は、SI-1がSD-28を切っていることから、SD-28由来の混入品と考えたい。

*東区の古記録による。また、小川氏には新富町の当該時期の一括資料を譲渡させていただいた。記して感謝いたします。

時期 土師器長脚甕(No.1)から、6世紀末～7世紀初め。

備考 SD-21との切り合いは、埋没土の崩れ中には気づかず、遺物を採り上げた後に床面を検出したときに気づいた。SD-21がSI-1の床面を破壊している範囲内の遺物は、SD-21出土に変更したが、SD-21跡で出土した遺物は、便宜上SI-1出土遺物として取り扱った。従って、須志器坪(No.3)のように本来SD-21出土とすべき遺物をSI-1出土としてしまっている場合がある。

VI. まとめ

土壌断面からみた土地利用の履歴 基本土層から近世水田の存在が推定される。鉄・マンガン酸化集積層を間に挟む特徴から、II層は表面水型水田土層と判断した。II A層とI A層との間に部分的にAs-Aを挟み下層にAs-B(III C層)が認められるため、層序に乱れがなければ、近世に帰属すると考えられる。III C層まで重機で除去したため、平面的に存在するかどうかの確認はできなかった。

土壌断面からみたAs-B下面の土地利用 As-B下面の土層断面(IV層)は、下層土が尙湿潤して灰色を呈する特徴から、主に水田に利用される灰色沖積土と判断した。私見では、田中出遺跡IIで確認されたAs-B下水田の土壌断面(村上2007)とよく似ている。第1面では、畦畔など水田の痕跡を平面的に検出できなかったが、水田として利用されていた可能性がある。

第1面 試験調査において確認された溝であり、耕作痕と考えられている。試験トレンチを挟んだ側面を検出された溝状のカクランとSD-1～6がほぼ一致するため、これらの溝がカクランの一部である可能性がある。帰属時期は不明であるが、埋没土であるAs-B中に下位層であるIV A層土がブロック状に認められたことから、少なくともAs-B降下以降であり、もしカクランの一部であるならばAs-A降下以降に帰属すると考えられる。

第2面 第2面は、試験調査の成果から当初ローム面の検出を目的としてIV層を重機で掘り下げている途中で、遺物が多量に出土し始めたこと、VI層の上面でIV B層土を埋没土とする溝が検出されたために、調査対象とした面である。

調査区西半のSD-13～19は、第1面のSD-1～11と同様に、細長く、南北の方向が認められた。第3面由来の遺物が出土するのみで、遺物の帰属時期に合致する遺物の出土がなく、機能および帰属時期の特定は困難であったが、SD-21の埋没土上の層序関係から、平安時代中頃に降As-B降下以前にまで絞り込むことができた。

SD-20、21は、本調査地点で検出された溝の中で、比較的深くしっかりした掘り込みの溝である。ごく一部分の検出であるが、溝の向きが平行しているため何らかの目的で掘られた溝と考えられよう。帰属時期は、SD-21の出土遺物から9世紀後半から10世紀ごろと推定される。

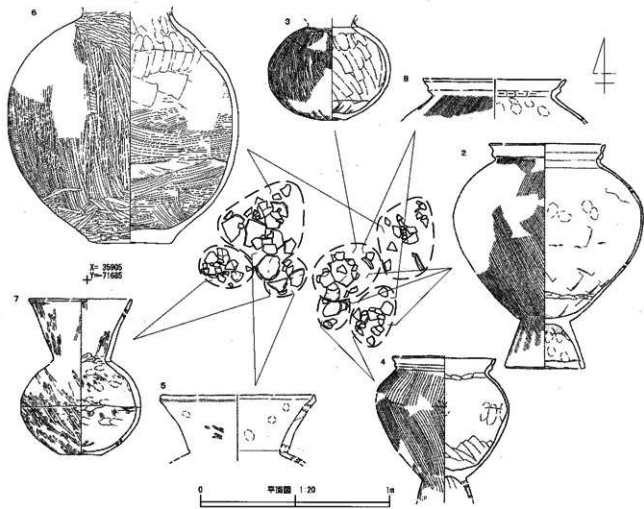
SI-1 SI-1は、本調査地点で唯一住居跡として認定した遺構である。隣接する第1次調査地点の住居跡は、主に3世紀後半代～5世紀初めごろであり、6世紀後半代に帰属する住居跡が1軒のみである。SI-1は6世紀末～7世紀初め頃に比定されるため、第1次調査地点との関連性は若干薄いものと考えられる。帰属時期からカマドのある住居跡と思われるが、調査区内では確認されなかったため、調査区外に位置すると推定される。

SX-1～5、SD-28と遺物の分布状況 SX-1～5は、遺物が集中的に出土し、確認面において比較的明確な長方形のプランが認められたため、当初住居跡として調査したが、掘削の結果、壁面が緩やかに傾斜し深さが浅いなどSI-1のような明瞭な掘り込みが確認できず、硬化した床面や炉・カマドなど住居と認定できる証拠が認められなかった。遺物の出土状況は、大半の山七位置が遺構の底面よりも高く、むしろ確認面に近い高さであり、分布範囲も確認面で認められたプランよりも広い範囲に及んでいる(写真図版2)ため、遺構と遺物との値別の相関性はあまり高くないと推定される。けれども、SX-1～5の分布と遺物の分布のいずれも、調査区の北壁と南壁に沿い、調査区の中央から南西方向にかけて認められない点で共通点をもつ。

SD-28は、当初2軒の住居跡として調査したが、掘削の結果、住居と認定できる証拠が認められず住居間を越えて伸びる帯状の低い掘り込みが認められたことから、1条の溝であると判断した。遺物を大量に出土するが、まともな廃棄されたとと思われる状況を示す遺物(No.1、6、11、29)も出土している(写真図版3)。

SX-1～5、SD-28のいずれも、出土遺物そのものは大半が接合と復元のできない破片であるため廃棄されたものと考えられるが、出土遺物とSX-1～5、SD-28の分布状況から、廃棄の範囲に何らかの規制が設けられていたことが推定される。SD-28から出土したS字壺が帰属する時期は第1次調査地点の集落が機能していた時期であり、廃棄されたと推定される遺物はこの集落と関係があると思われる。

SX-3における一括廃棄 SX-3において7点の遺物(No.2～8)がまとまった状態で出土した。完形にまで復元できるほどの破片が出



第9図 SX-3 遺物出土状況 (遺物 S=1:4)

土しなかったが、第1面でも一部が露出していたため、表土はぎで削平してしまった可能性がある。第3面における遺物の出土状況と明らかに異なる状態で出土しているため、単なる廃棄ではないかもしれない。出土レベルが比較的高いことと、No.4のようにS字裏の中でも比較的新しい時期の遺物が含まれていることから、本調査地点における古墳時代前期の土地利用が終わるころに係わるものと考えておきたい。

結論 調査によって、本調査地点の履歴は以下のように推定される。本調査地点は、遺構よりも遺物の山上が特徴的であり、3世紀後半代～5世紀初めごろの本遺跡第1次調査地点の集落に関わると推定される。古墳時代前期での利用が終了したのち、数世紀の断絶の後、6世紀末～7世紀初め頃に集落の一部に組み込まれたと考えられる。集落の廃絶後、平行するSD-20、21が埋没する9世紀後半から10世紀以降に、水田として機能していたと思われるが、As-B降下よりも前の11世紀中に水田としては廃絶されたと思われる。As-B降下後は、As-Aの降下以前の近世に水田として機能しており、1A層からの粗り込み(カクラン)から畑に転換したと推定される。

＜参考文献＞

- 飯塚恵子・出口一郎, 1981『元島名符草城古墳 前方後円墳の外部施設確認調査』(高崎市文化財調査報告書第22巻), 高崎市教育委員会
- 坂口一・三浦京子, 1986『奈良・平安時代の土器の断片—住居の遺物と共存関係による土器形式系列の検討—』『群馬県史研究』24, 群馬県, pp.18-55
- 加藤芳郎, 1987『古墳地帯の形成のために土壌学は何を寄与するか』『土壌学と考古学』博文社, pp.7-31
- 松井 寛, 1988『土壌地理学序論』築地書館
- 青木 徹, 1990『群馬県における弥生土器の断片遺物』『群馬考古学手帳』Vol.1, 群馬土器研究会, pp.11-32
- 滝沢教仁, 1998『上野における土器の交流と展開』『庄内式土器研究』XVI, 庄内式土器研究会, pp.95-109
- 高崎市史編さん委員会, 2000『新編 高崎市史 資料編2 原始古代II』, 高崎市, pp.11-38

五十嵐 信・関川 修, 2000『概説 古墳時代の高崎』『新編 高崎市史 資料編 2 原始古代Ⅱ』, 高崎市, pp. 20-26

高崎市史編さん委員会, 2003『新編 高崎市史 資料編 1 原始古代Ⅰ』, 高崎市

松原善介, 2003『概説 弥生時代』『新編 高崎市史 資料編 1 原始古代Ⅰ』, 高崎市, pp. 145-158

中村正芳, 2003『高崎の自然の特色』『新編 高崎市史 通史編 1 原始古代』, 高崎市

柏木 勇・大木 幹一郎・中東謙之・松崎 修一郎, 2007『中戸町一丁目遺跡(若)3.3.8高崎駅東口線地方特定街路整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』

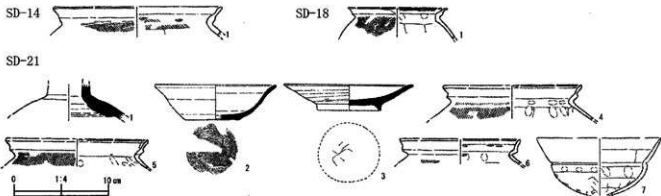
(財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第396集), 県土整備局高崎土木事務所・財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

大木 幹一郎, 2007『出土遺物による年代の推定』『中戸町一丁目遺跡(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団』, pp. 106-113

村上幸典, 2007『基本層序』『田中田遺跡Ⅱ(仮称)伊勢崎PAスマート1C整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』(伊勢崎市文化財報告書 第82集),

伊勢崎市教育委員会, pp. 7-9

早川 山紀夫, 2010『浅間山の風雲に巻き込まれた歴史を読み解く』『群馬大学教育情報紀要 自然科学編』第58巻, 群馬大学教育学部, pp. 66-81



第10図 SD-14・SD-18・SD-21 出土遺物図

第1表 SD-14 出土遺物観察表

遺物 No.	種類	口径	底径	高さ	器底	器形	器色(外)	器色(内)	器内装飾	備考・結合(既述No.)
SD-14 1	土器鉢	φ13.4	φ10.0	4.0	底平	鉢形	赤褐色(外)	赤褐色(内)	器内装飾なし	アサキ土
2	土器壺	φ13.7	φ10.0	11.0	底平	壺形	赤褐色(外)	赤褐色(内)	器内装飾なし	アサキ土

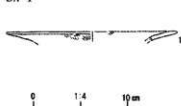
第2表 SD-18 出土遺物観察表

遺物 No.	種類	口径	底径	高さ	器底	器形	器色(外)	器色(内)	器内装飾	備考・結合(既述No.)
SD-18 1	土器鉢	φ13.4	φ10.0	4.0	底平	鉢形	赤褐色(外)	赤褐色(内)	器内装飾なし	アサキ土
2	土器壺	φ13.7	φ10.0	11.0	底平	壺形	赤褐色(外)	赤褐色(内)	器内装飾なし	アサキ土

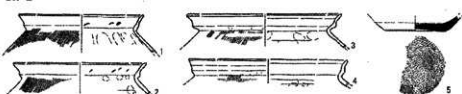
第3表 SD-21 出土遺物観察表

遺物 No.	種類	口径	底径	高さ	器底	器形	器色(外)	器色(内)	器内装飾	備考・結合(既述No.)
SD-21 1	土器鉢	φ13.4	φ10.0	4.0	底平	鉢形	赤褐色(外)	赤褐色(内)	器内装飾なし	アサキ土
2	土器壺	φ13.7	φ10.0	11.0	底平	壺形	赤褐色(外)	赤褐色(内)	器内装飾なし	アサキ土
3	土器鉢	φ13.4	φ10.0	4.0	底平	鉢形	赤褐色(外)	赤褐色(内)	器内装飾なし	アサキ土
4	土器壺	φ13.7	φ10.0	11.0	底平	壺形	赤褐色(外)	赤褐色(内)	器内装飾なし	アサキ土
5	土器鉢	φ13.4	φ10.0	4.0	底平	鉢形	赤褐色(外)	赤褐色(内)	器内装飾なし	アサキ土
6	土器壺	φ13.7	φ10.0	11.0	底平	壺形	赤褐色(外)	赤褐色(内)	器内装飾なし	アサキ土
7	土器鉢	φ13.4	φ10.0	4.0	底平	鉢形	赤褐色(外)	赤褐色(内)	器内装飾なし	アサキ土
8	土器壺	φ13.7	φ10.0	11.0	底平	壺形	赤褐色(外)	赤褐色(内)	器内装飾なし	アサキ土
9	土器鉢	φ13.4	φ10.0	4.0	底平	鉢形	赤褐色(外)	赤褐色(内)	器内装飾なし	アサキ土
10	土器壺	φ13.7	φ10.0	11.0	底平	壺形	赤褐色(外)	赤褐色(内)	器内装飾なし	アサキ土
11	土器鉢	φ13.4	φ10.0	4.0	底平	鉢形	赤褐色(外)	赤褐色(内)	器内装飾なし	アサキ土
12	土器壺	φ13.7	φ10.0	11.0	底平	壺形	赤褐色(外)	赤褐色(内)	器内装飾なし	アサキ土

SX-1



SX-2



第11図 SX-1・SX-2 出土遺物図

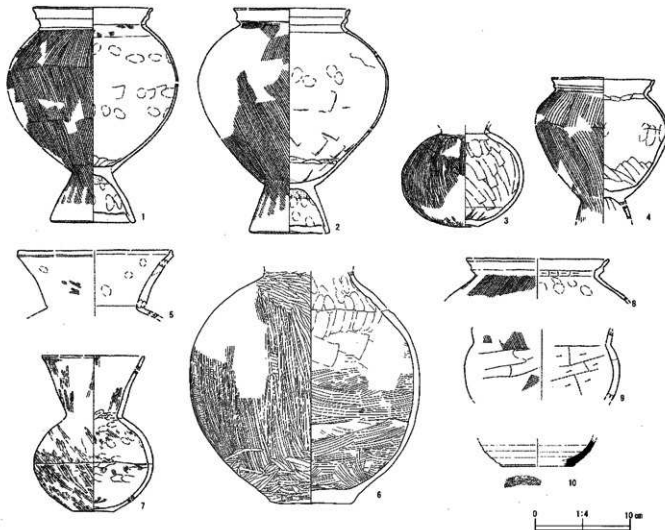
第4表 SX-1 出土遺物観察表

遺物	種別	口徑	底径	高さ	容積	出土層	出土位置	出土状況	備考
1	土器	11.0	5.0	11.0	0.17	1	1	出土層	備考
2	土器	11.0	5.0	11.0	0.17	1	1	出土層	備考

第5表 SX-2 出土遺物観察表

遺物	種別	口徑	底径	高さ	容積	出土層	出土位置	出土状況	備考
1	土器	11.0	5.0	11.0	0.17	1	1	出土層	備考
2	土器	11.0	5.0	11.0	0.17	1	1	出土層	備考
3	土器	11.0	5.0	11.0	0.17	1	1	出土層	備考
4	土器	11.0	5.0	11.0	0.17	1	1	出土層	備考
5	土器	11.0	5.0	11.0	0.17	1	1	出土層	備考
6	土器	11.0	5.0	11.0	0.17	1	1	出土層	備考

SX-3



第12図 SX-3 出土遺物図

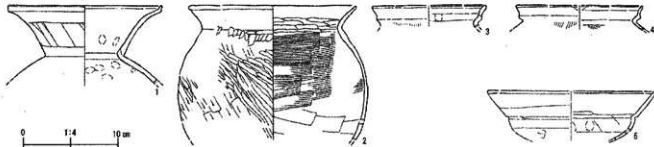
第6表 SX-3 出土遺物観察表

遺物 No.	場所	出土 位置	出土 層	形状	材質	色(内面)	色(外面)	内外装飾	備考・保存 No.
SX-3	土師窯	① 12.6	① 12.6	① 12.6	① 12.6	① 12.6	① 12.6	① 12.6	31
SX-3	土師窯	② 15.7	② 15.7	② 15.7	② 15.7	② 15.7	② 15.7	② 15.7	32
SX-3	土師窯	③ 18.1	③ 18.1	③ 18.1	③ 18.1	③ 18.1	③ 18.1	③ 18.1	33
SX-3	土師窯	④ 24.7	④ 24.7	④ 24.7	④ 24.7	④ 24.7	④ 24.7	④ 24.7	34
SX-3	土師窯	⑤	⑤ 25.8	⑤ 25.8	⑤ 25.8	⑤ 25.8	⑤ 25.8	⑤ 25.8	35
SX-3	土師窯	⑥	⑥ 26.9	⑥ 26.9	⑥ 26.9	⑥ 26.9	⑥ 26.9	⑥ 26.9	36
SX-3	土師窯	⑦	⑦ 28.5	⑦ 28.5	⑦ 28.5	⑦ 28.5	⑦ 28.5	⑦ 28.5	37
SX-3	土師窯	⑧	⑧ 31.8	⑧ 31.8	⑧ 31.8	⑧ 31.8	⑧ 31.8	⑧ 31.8	38
SX-3	土師窯	⑨	⑨ 34.3	⑨ 34.3	⑨ 34.3	⑨ 34.3	⑨ 34.3	⑨ 34.3	39
SX-3	土師窯	⑩	⑩ 35.0	⑩ 35.0	⑩ 35.0	⑩ 35.0	⑩ 35.0	⑩ 35.0	40
SX-3	土師窯	⑪	⑪ 37.9	⑪ 37.9	⑪ 37.9	⑪ 37.9	⑪ 37.9	⑪ 37.9	41
SX-3	土師窯	⑫	⑫ 39.8	⑫ 39.8	⑫ 39.8	⑫ 39.8	⑫ 39.8	⑫ 39.8	42
SX-3	土師窯	⑬	⑬ 41.1	⑬ 41.1	⑬ 41.1	⑬ 41.1	⑬ 41.1	⑬ 41.1	43
SX-3	土師窯	⑭	⑭ 42.5	⑭ 42.5	⑭ 42.5	⑭ 42.5	⑭ 42.5	⑭ 42.5	44
SX-3	土師窯	⑮	⑮ 44.2	⑮ 44.2	⑮ 44.2	⑮ 44.2	⑮ 44.2	⑮ 44.2	45
SX-3	土師窯	⑯	⑯ 45.8	⑯ 45.8	⑯ 45.8	⑯ 45.8	⑯ 45.8	⑯ 45.8	46
SX-3	土師窯	⑰	⑰ 47.8	⑰ 47.8	⑰ 47.8	⑰ 47.8	⑰ 47.8	⑰ 47.8	47
SX-3	土師窯	⑱	⑱ 49.8	⑱ 49.8	⑱ 49.8	⑱ 49.8	⑱ 49.8	⑱ 49.8	48
SX-3	土師窯	⑲	⑲ 51.0	⑲ 51.0	⑲ 51.0	⑲ 51.0	⑲ 51.0	⑲ 51.0	49
SX-3	土師窯	⑳	⑳ 52.2	⑳ 52.2	⑳ 52.2	⑳ 52.2	⑳ 52.2	⑳ 52.2	50
SX-3	土師窯	㉑	㉑ 53.9	㉑ 53.9	㉑ 53.9	㉑ 53.9	㉑ 53.9	㉑ 53.9	51
SX-3	土師窯	㉒	㉒ 55.0	㉒ 55.0	㉒ 55.0	㉒ 55.0	㉒ 55.0	㉒ 55.0	52
SX-3	土師窯	㉓	㉓ 56.5	㉓ 56.5	㉓ 56.5	㉓ 56.5	㉓ 56.5	㉓ 56.5	53
SX-3	土師窯	㉔	㉔ 58.2	㉔ 58.2	㉔ 58.2	㉔ 58.2	㉔ 58.2	㉔ 58.2	54
SX-3	土師窯	㉕	㉕ 59.8	㉕ 59.8	㉕ 59.8	㉕ 59.8	㉕ 59.8	㉕ 59.8	55
SX-3	土師窯	㉖	㉖ 61.5	㉖ 61.5	㉖ 61.5	㉖ 61.5	㉖ 61.5	㉖ 61.5	56
SX-3	土師窯	㉗	㉗ 63.0	㉗ 63.0	㉗ 63.0	㉗ 63.0	㉗ 63.0	㉗ 63.0	57
SX-3	土師窯	㉘	㉘ 64.5	㉘ 64.5	㉘ 64.5	㉘ 64.5	㉘ 64.5	㉘ 64.5	58
SX-3	土師窯	㉙	㉙ 66.2	㉙ 66.2	㉙ 66.2	㉙ 66.2	㉙ 66.2	㉙ 66.2	59
SX-3	土師窯	㉚	㉚ 67.7	㉚ 67.7	㉚ 67.7	㉚ 67.7	㉚ 67.7	㉚ 67.7	60
SX-3	土師窯	㉛	㉛ 69.2	㉛ 69.2	㉛ 69.2	㉛ 69.2	㉛ 69.2	㉛ 69.2	61
SX-3	土師窯	㉜	㉜ 70.7	㉜ 70.7	㉜ 70.7	㉜ 70.7	㉜ 70.7	㉜ 70.7	62
SX-3	土師窯	㉝	㉝ 72.2	㉝ 72.2	㉝ 72.2	㉝ 72.2	㉝ 72.2	㉝ 72.2	63
SX-3	土師窯	㉞	㉞ 73.7	㉞ 73.7	㉞ 73.7	㉞ 73.7	㉞ 73.7	㉞ 73.7	64
SX-3	土師窯	㉟	㉟ 75.2	㉟ 75.2	㉟ 75.2	㉟ 75.2	㉟ 75.2	㉟ 75.2	65
SX-3	土師窯	㊱	㊱ 76.7	㊱ 76.7	㊱ 76.7	㊱ 76.7	㊱ 76.7	㊱ 76.7	66
SX-3	土師窯	㊲	㊲ 78.2	㊲ 78.2	㊲ 78.2	㊲ 78.2	㊲ 78.2	㊲ 78.2	67
SX-3	土師窯	㊳	㊳ 79.7	㊳ 79.7	㊳ 79.7	㊳ 79.7	㊳ 79.7	㊳ 79.7	68
SX-3	土師窯	㊴	㊴ 81.2	㊴ 81.2	㊴ 81.2	㊴ 81.2	㊴ 81.2	㊴ 81.2	69
SX-3	土師窯	㊵	㊵ 82.7	㊵ 82.7	㊵ 82.7	㊵ 82.7	㊵ 82.7	㊵ 82.7	70
SX-3	土師窯	㊶	㊶ 84.2	㊶ 84.2	㊶ 84.2	㊶ 84.2	㊶ 84.2	㊶ 84.2	71
SX-3	土師窯	㊷	㊷ 85.7	㊷ 85.7	㊷ 85.7	㊷ 85.7	㊷ 85.7	㊷ 85.7	72
SX-3	土師窯	㊸	㊸ 87.2	㊸ 87.2	㊸ 87.2	㊸ 87.2	㊸ 87.2	㊸ 87.2	73
SX-3	土師窯	㊹	㊹ 88.7	㊹ 88.7	㊹ 88.7	㊹ 88.7	㊹ 88.7	㊹ 88.7	74
SX-3	土師窯	㊺	㊺ 90.2	㊺ 90.2	㊺ 90.2	㊺ 90.2	㊺ 90.2	㊺ 90.2	75
SX-3	土師窯	㊻	㊻ 91.7	㊻ 91.7	㊻ 91.7	㊻ 91.7	㊻ 91.7	㊻ 91.7	76
SX-3	土師窯	㊼	㊼ 93.2	㊼ 93.2	㊼ 93.2	㊼ 93.2	㊼ 93.2	㊼ 93.2	77
SX-3	土師窯	㊽	㊽ 94.7	㊽ 94.7	㊽ 94.7	㊽ 94.7	㊽ 94.7	㊽ 94.7	78
SX-3	土師窯	㊾	㊾ 96.2	㊾ 96.2	㊾ 96.2	㊾ 96.2	㊾ 96.2	㊾ 96.2	79
SX-3	土師窯	㊿	㊿ 97.7	㊿ 97.7	㊿ 97.7	㊿ 97.7	㊿ 97.7	㊿ 97.7	80

SX-4



SX-5



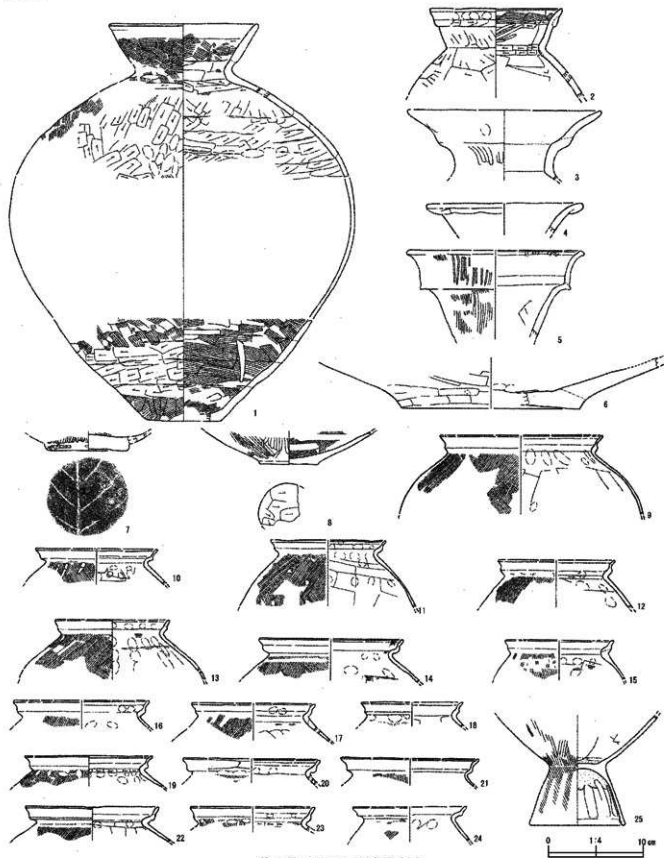
第13図 SX-4・SX-5 出土遺物図

第7表 SX-4 出土遺物観察表

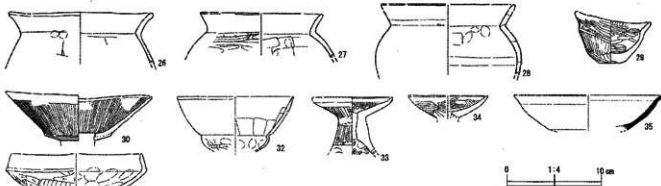
遺物 No.	場所	出土 位置	出土 層	形状	材質	色(内面)	色(外面)	内外装飾	備考・保存 No.
SX-4	土師窯	① 18.6	① 18.6	① 18.6	① 18.6	① 18.6	① 18.6	① 18.6	31
SX-4	土師窯	② 19.0	② 19.0	② 19.0	② 19.0	② 19.0	② 19.0	② 19.0	32

第8表 SX-6 出土遺物観察表

遺物 No.	場所	出土 位置	出土 層	形状	材質	色(内面)	色(外面)	内外装飾	備考・保存 No.
SX-6	土師窯	① 18.6	① 18.6	① 18.6	① 18.6	① 18.6	① 18.6	① 18.6	31
SX-6	土師窯	② 19.0	② 19.0	② 19.0	② 19.0	② 19.0	② 19.0	② 19.0	32
SX-6	土師窯	③ 21.4	③ 21.4	③ 21.4	③ 21.4	③ 21.4	③ 21.4	③ 21.4	33
SX-6	土師窯	④ 23.9	④ 23.9	④ 23.9	④ 23.9	④ 23.9	④ 23.9	④ 23.9	34
SX-6	土師窯	⑤ 25.3	⑤ 25.3	⑤ 25.3	⑤ 25.3	⑤ 25.3	⑤ 25.3	⑤ 25.3	35
SX-6	土師窯	⑥ 26.7	⑥ 26.7	⑥ 26.7	⑥ 26.7	⑥ 26.7	⑥ 26.7	⑥ 26.7	36
SX-6	土師窯	⑦ 28.1	⑦ 28.1	⑦ 28.1	⑦ 28.1	⑦ 28.1	⑦ 28.1	⑦ 28.1	37
SX-6	土師窯	⑧ 29.5	⑧ 29.5	⑧ 29.5	⑧ 29.5	⑧ 29.5	⑧ 29.5	⑧ 29.5	38
SX-6	土師窯	⑨ 30.9	⑨ 30.9	⑨ 30.9	⑨ 30.9	⑨ 30.9	⑨ 30.9	⑨ 30.9	39
SX-6	土師窯	⑩ 32.3	⑩ 32.3	⑩ 32.3	⑩ 32.3	⑩ 32.3	⑩ 32.3	⑩ 32.3	40
SX-6	土師窯	⑪ 33.7	⑪ 33.7	⑪ 33.7	⑪ 33.7	⑪ 33.7	⑪ 33.7	⑪ 33.7	41
SX-6	土師窯	⑫ 35.1	⑫ 35.1	⑫ 35.1	⑫ 35.1	⑫ 35.1	⑫ 35.1	⑫ 35.1	42
SX-6	土師窯	⑬ 36.5	⑬ 36.5	⑬ 36.5	⑬ 36.5	⑬ 36.5	⑬ 36.5	⑬ 36.5	43
SX-6	土師窯	⑭ 37.9	⑭ 37.9	⑭ 37.9	⑭ 37.9	⑭ 37.9	⑭ 37.9	⑭ 37.9	44
SX-6	土師窯	⑮ 39.3	⑮ 39.3	⑮ 39.3	⑮ 39.3	⑮ 39.3	⑮ 39.3	⑮ 39.3	45
SX-6	土師窯	⑯ 40.7	⑯ 40.7	⑯ 40.7	⑯ 40.7	⑯ 40.7	⑯ 40.7	⑯ 40.7	46
SX-6	土師窯	⑰ 42.1	⑰ 42.1	⑰ 42.1	⑰ 42.1	⑰ 42.1	⑰ 42.1	⑰ 42.1	47
SX-6	土師窯	⑱ 43.5	⑱ 43.5	⑱ 43.5	⑱ 43.5	⑱ 43.5	⑱ 43.5	⑱ 43.5	48
SX-6	土師窯	⑲	⑲ 44.9	⑲ 44.9	⑲ 44.9	⑲ 44.9	⑲ 44.9	⑲ 44.9	49
SX-6	土師窯	㉑	㉑ 46.3	㉑ 46.3	㉑ 46.3	㉑ 46.3	㉑ 46.3	㉑ 46.3	50
SX-6	土師窯	㉒	㉒ 47.7	㉒ 47.7	㉒ 47.7	㉒ 47.7	㉒ 47.7	㉒ 47.7	51
SX-6	土師窯	㉓	㉓ 49.1	㉓ 49.1	㉓ 49.1	㉓ 49.1	㉓ 49.1	㉓ 49.1	52
SX-6	土師窯	㉔	㉔ 50.5	㉔ 50.5	㉔ 50.5	㉔ 50.5	㉔ 50.5	㉔ 50.5	53
SX-6	土師窯	㉕	㉕ 51.9	㉕ 51.9	㉕ 51.9	㉕ 51.9	㉕ 51.9	㉕ 51.9	54
SX-6	土師窯	㉖	㉖ 53.3	㉖ 53.3	㉖ 53.3	㉖ 53.3	㉖ 53.3	㉖ 53.3	55
SX-6	土師窯	㉗	㉗ 54.7	㉗ 54.7	㉗ 54.7	㉗ 54.7	㉗ 54.7	㉗ 54.7	56
SX-6	土師窯	㉘	㉘ 56.1	㉘ 56.1	㉘ 56.1	㉘ 56.1	㉘ 56.1	㉘ 56.1	57
SX-6	土師窯	㉙	㉙ 57.5	㉙ 57.5	㉙ 57.5	㉙ 57.5	㉙ 57.5	㉙ 57.5	58
SX-6	土師窯	㉚	㉚ 58.9	㉚ 58.9	㉚ 58.9	㉚ 58.9	㉚ 58.9	㉚ 58.9	59
SX-6	土師窯	㉛	㉛ 60.3	㉛ 60.3	㉛ 60.3	㉛ 60.3	㉛ 60.3	㉛ 60.3	60
SX-6	土師窯	㉜	㉜ 61.7	㉜ 61.7	㉜ 61.7	㉜ 61.7	㉜ 61.7	㉜ 61.7	61
SX-6	土師窯	㉝	㉝ 63.1	㉝ 63.1	㉝ 63.1	㉝ 63.1	㉝ 63.1	㉝ 63.1	62
SX-6	土師窯	㉞	㉞ 64.5	㉞ 64.5	㉞ 64.5	㉞ 64.5	㉞ 64.5	㉞ 64.5	63
SX-6	土師窯	㉟	㉟ 65.9	㉟ 65.9	㉟ 65.9	㉟ 65.9	㉟ 65.9	㉟ 65.9	64
SX-6	土師窯	㊱	㊱ 67.3	㊱ 67.3	㊱ 67.3	㊱ 67.3	㊱ 67.3	㊱ 67.3	65
SX-6	土師窯	㊲	㊲ 68.7	㊲ 68.7	㊲ 68.7	㊲ 68.7	㊲ 68.7	㊲ 68.7	66
SX-6	土師窯	㊳	㊳ 70.1	㊳ 70.1	㊳ 70.1	㊳ 70.1	㊳ 70.1	㊳ 70.1	67
SX-6	土師窯	㊴	㊴ 71.5	㊴ 71.5	㊴ 71.5	㊴ 71.5	㊴ 71.5	㊴ 71.5	68
SX-6	土師窯	㊵	㊵ 72.9	㊵ 72.9	㊵ 72.9	㊵ 72.9	㊵ 72.9	㊵ 72.9	69
SX-6	土師窯	㊶	㊶ 74.3	㊶ 74.3	㊶ 74.3	㊶ 74.3	㊶ 74.3	㊶ 74.3	70
SX-6	土師窯	㊷	㊷ 75.7						



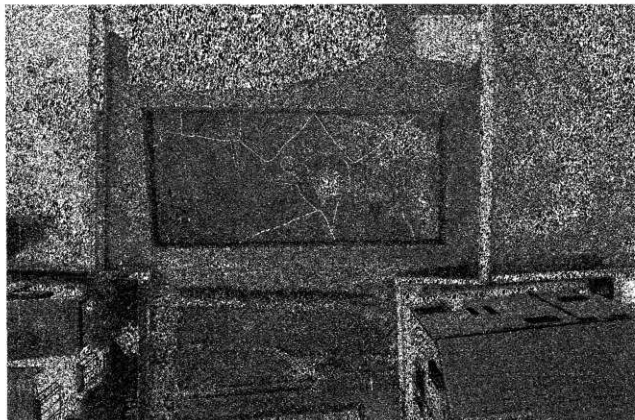
第14图 SD-28出土器物图(1)



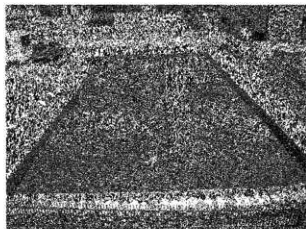
第15図 SD-28出土遺物図(2)

第9表 SD-28出土遺物観察表(1)

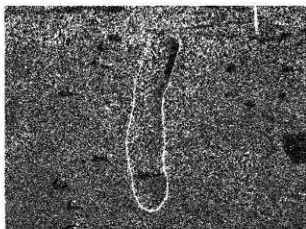
層別	種別	寸法	重量	図番	図名	出土地点	調査年度	調査者	図番	図名	出土地点	調査年度	調査者	図番	図名	出土地点	調査年度	調査者	備考・集合(調査No.)
1	土	φ42.0	50.0	26	土器	26	1958	佐藤	26	土器	26	1958	佐藤	26	土器	26	1958	佐藤	42, 148, 149, 150, 206, フタ土C, フタ土上層
2	土器	φ14.0	51	27	土器	27	1958	佐藤	27	土器	27	1958	佐藤	27	土器	27	1958	佐藤	206, フタ土C, SD-21, SD, SD, 41
3	土器	φ9.80	30	28	土器	28	1958	佐藤	28	土器	28	1958	佐藤	28	土器	28	1958	佐藤	206, フタ土C, SD-21, SD, SD, 41
4	土器	φ20.5	20	29	土器	29	1958	佐藤	29	土器	29	1958	佐藤	29	土器	29	1958	佐藤	37, 347, 348, フタ土上層, SD 3, 8
5	土器	φ27.30	100	30	土器	30	1958	佐藤	30	土器	30	1958	佐藤	30	土器	30	1958	佐藤	37, 347, 348, フタ土上層, SD 3, 8
6	土器	φ18.5	3	31	土器	31	1958	佐藤	31	土器	31	1958	佐藤	31	土器	31	1958	佐藤	37, 347, 348, フタ土上層, SD 3, 8
7	土器	φ12.0	1.0	32	土器	32	1958	佐藤	32	土器	32	1958	佐藤	32	土器	32	1958	佐藤	37, 347, 348, フタ土上層, SD 3, 8
8	土器	φ18.2	3	33	土器	33	1958	佐藤	33	土器	33	1958	佐藤	33	土器	33	1958	佐藤	37, 347, 348, フタ土上層, SD 3, 8
9	土器	φ8.20	1.0	34	土器	34	1958	佐藤	34	土器	34	1958	佐藤	34	土器	34	1958	佐藤	37, 347, 348, フタ土上層, SD 3, 8
10	土器	φ14.0	1.0	35	土器	35	1958	佐藤	35	土器	35	1958	佐藤	35	土器	35	1958	佐藤	37, 347, 348, フタ土上層, SD 3, 8
11	土器	φ14.0	1.0	36	土器	36	1958	佐藤	36	土器	36	1958	佐藤	36	土器	36	1958	佐藤	37, 347, 348, フタ土上層, SD 3, 8
12	土器	φ14.0	1.0	37	土器	37	1958	佐藤	37	土器	37	1958	佐藤	37	土器	37	1958	佐藤	37, 347, 348, フタ土上層, SD 3, 8
13	土器	φ14.0	1.0	38	土器	38	1958	佐藤	38	土器	38	1958	佐藤	38	土器	38	1958	佐藤	37, 347, 348, フタ土上層, SD 3, 8
14	土器	φ14.0	1.0	39	土器	39	1958	佐藤	39	土器	39	1958	佐藤	39	土器	39	1958	佐藤	37, 347, 348, フタ土上層, SD 3, 8
15	土器	φ14.0	1.0	40	土器	40	1958	佐藤	40	土器	40	1958	佐藤	40	土器	40	1958	佐藤	37, 347, 348, フタ土上層, SD 3, 8
16	土器	φ14.0	1.0	41	土器	41	1958	佐藤	41	土器	41	1958	佐藤	41	土器	41	1958	佐藤	37, 347, 348, フタ土上層, SD 3, 8
17	土器	φ14.0	1.0	42	土器	42	1958	佐藤	42	土器	42	1958	佐藤	42	土器	42	1958	佐藤	37, 347, 348, フタ土上層, SD 3, 8
18	土器	φ14.0	1.0	43	土器	43	1958	佐藤	43	土器	43	1958	佐藤	43	土器	43	1958	佐藤	37, 347, 348, フタ土上層, SD 3, 8
19	土器	φ14.0	1.0	44	土器	44	1958	佐藤	44	土器	44	1958	佐藤	44	土器	44	1958	佐藤	37, 347, 348, フタ土上層, SD 3, 8
20	土器	φ14.0	1.0	45	土器	45	1958	佐藤	45	土器	45	1958	佐藤	45	土器	45	1958	佐藤	37, 347, 348, フタ土上層, SD 3, 8
21	土器	φ14.0	1.0	46	土器	46	1958	佐藤	46	土器	46	1958	佐藤	46	土器	46	1958	佐藤	37, 347, 348, フタ土上層, SD 3, 8
22	土器	φ14.0	1.0	47	土器	47	1958	佐藤	47	土器	47	1958	佐藤	47	土器	47	1958	佐藤	37, 347, 348, フタ土上層, SD 3, 8
23	土器	φ14.0	1.0	48	土器	48	1958	佐藤	48	土器	48	1958	佐藤	48	土器	48	1958	佐藤	37, 347, 348, フタ土上層, SD 3, 8
24	土器	φ14.0	1.0	49	土器	49	1958	佐藤	49	土器	49	1958	佐藤	49	土器	49	1958	佐藤	37, 347, 348, フタ土上層, SD 3, 8
25	土器	φ14.0	1.0	50	土器	50	1958	佐藤	50	土器	50	1958	佐藤	50	土器	50	1958	佐藤	37, 347, 348, フタ土上層, SD 3, 8
26	土器	φ14.0	1.0	51	土器	51	1958	佐藤	51	土器	51	1958	佐藤	51	土器	51	1958	佐藤	37, 347, 348, フタ土上層, SD 3, 8
27	土器	φ14.0	1.0	52	土器	52	1958	佐藤	52	土器	52	1958	佐藤	52	土器	52	1958	佐藤	37, 347, 348, フタ土上層, SD 3, 8
28	土器	φ14.0	1.0	53	土器	53	1958	佐藤	53	土器	53	1958	佐藤	53	土器	53	1958	佐藤	37, 347, 348, フタ土上層, SD 3, 8
29	土器	φ14.0	1.0	54	土器	54	1958	佐藤	54	土器	54	1958	佐藤	54	土器	54	1958	佐藤	37, 347, 348, フタ土上層, SD 3, 8
30	土器	φ14.0	1.0	55	土器	55	1958	佐藤	55	土器	55	1958	佐藤	55	土器	55	1958	佐藤	37, 347, 348, フタ土上層, SD 3, 8
31	土器	φ14.0	1.0	56	土器	56	1958	佐藤	56	土器	56	1958	佐藤	56	土器	56	1958	佐藤	37, 347, 348, フタ土上層, SD 3, 8
32	土器	φ14.0	1.0	57	土器	57	1958	佐藤	57	土器	57	1958	佐藤	57	土器	57	1958	佐藤	37, 347, 348, フタ土上層, SD 3, 8
33	土器	φ14.0	1.0	58	土器	58	1958	佐藤	58	土器	58	1958	佐藤	58	土器	58	1958	佐藤	37, 347, 348, フタ土上層, SD 3, 8
34	土器	φ14.0	1.0	59	土器	59	1958	佐藤	59	土器	59	1958	佐藤	59	土器	59	1958	佐藤	37, 347, 348, フタ土上層, SD 3, 8
35	土器	φ14.0	1.0	60	土器	60	1958	佐藤	60	土器	60	1958	佐藤	60	土器	60	1958	佐藤	37, 347, 348, フタ土上層, SD 3, 8



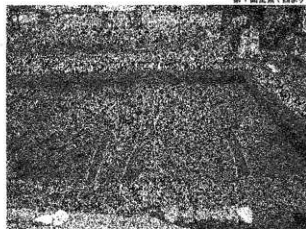
第3圖空編(上が北)



第1圖全景(西より)



第2圖SD-18全景(北より)

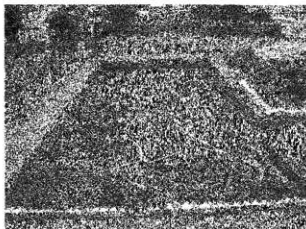


第2圖SD-13~18全景(北より)



第2圖SD-20~25全景(北より)

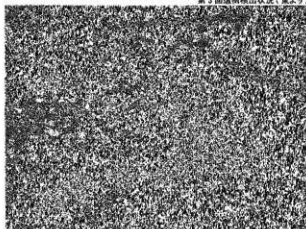
写真図版 2



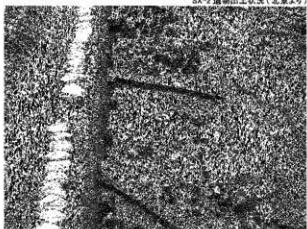
第3 階遺構出土状況(真上り)



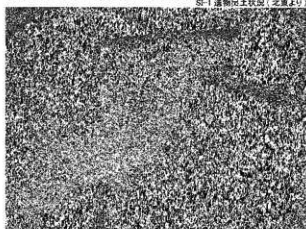
SX-2 遺物出土状況(北東上り)



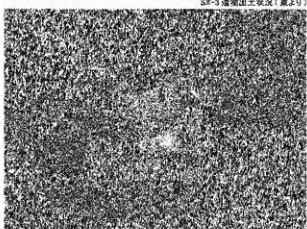
S1-1 遺物出土状況(北東上り)



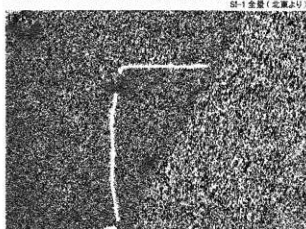
SX-3 遺物出土状況(真上り)



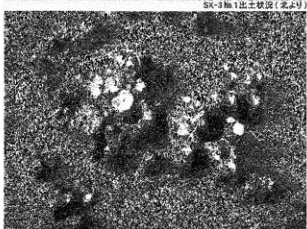
S1-1 全層(北東上り)



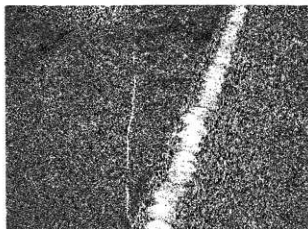
SX-3 掘1出土状況(北上り)



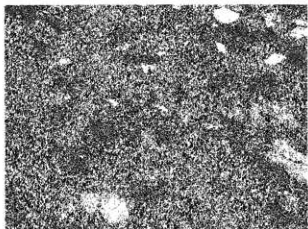
SX-1 遺物出土状況(北上り)



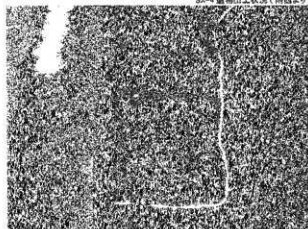
SX-3 掘2-7出土状況(南上り)



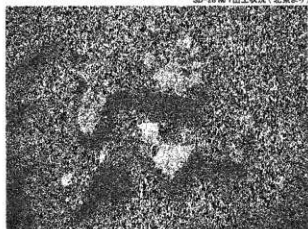
SK-4遺物出土状況(西南より)



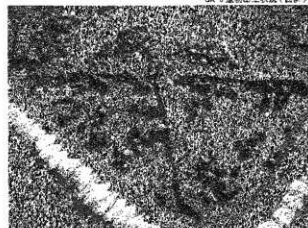
SD-28 No.1出土状況(北より)



SK-5遺物出土状況(西より)



SD-28 No.5出土状況(東より)



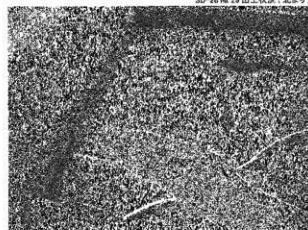
SD-28 No.28遺物出土状況(北より)



SD-28 No.29出土状況(北より)



SD-28 No.28遺物出土状況(南より)



SD-28 全景(北より)

写真図版 4

SD-14



SD-18



SD-21



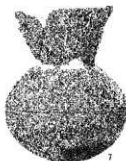
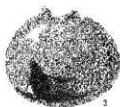
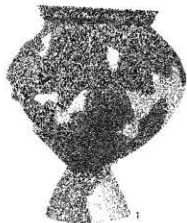
SX-1



SX-2



SX-3



写真図版 6

SI-1



第3面透写外



発掘調査報告書抄録

ふりがな	な	なかいまちいっちょうめいせき 2
書名	名	中居町一丁目遺跡 2
副書名	名	事務所建設に伴う埋蔵文化財発掘調査
巻次	次	
シリーズ名	名	高崎市文化財調査報告書
シリーズ番号	号	第 255 集
編著者名	名	村上章義・向出博之・倉田 功・田口一郎
編集機関	関	高崎市教育委員会
所在地	地	〒 370-8501 群馬県高崎市高松町 35 番地 1
発行年月日	日	平成 22 年 3 月 31 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		山町村	遺跡 番号					
なかいまち 中居町 いっちょうめ 一丁目	たかさき 高崎市 なかいまちいっちょうめ 中居町一丁目 ばんち 9番地 2	102024	443	36°19' 15.456" (36.32096)	139°2' 5.64" (139.0349)	2009.06.08 ～ 2009.07.10	46.2 ㎡	事務所 建設

所収 遺跡名	種別	主な 時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
中居町 一丁目 遺跡 (第2次 調査)	集落 他	古墳	溝 1条	S字甕、直口壺、小型丸底土器、他	6世紀末～7世紀初め
			竪穴状遺構 5基	S字甕、他	
			竪穴住居跡 1軒	長胴甕、他	
			土坑 3基		
			ピット 3基		
		平安	溝 7条	須恵器甕・坏・高台皿、他	9世紀後半～10世紀前半
			上坑 2基		
			溝 9条		
			溝 1条		
			近世 時期不明	水田	
溝 11条					

バーコード	遺跡名	形式	種別	位置
4H	第4層	SP-7 (600g前後)	A	B
5H	第5層 SID 3 SP.H 埋蔵品 No.49	SID 3-6	IVAA.L	IVA埋蔵土
		SID 3-7	I	I.A
		SID 3-8	I	I.A落ち込み部分
		SID 3-9	II	II.A
		SID 3-10	III	III.A
6H	第6層 SP-1埋蔵品 No.50	SP-1埋蔵品 No.50	(1.5g前後)	VA
		SP-1埋蔵品 No.50	2	VA
7H	第6層 土層出水	SP-7-6 灰砂 2層の埋蔵	SP-6, SP-C 2層の埋蔵	
12H	埋蔵品	I	I	
13～15H	遺土・瓦片	古瓦片		古瓦片
13H	第13層 No.1 埋蔵品 No.	1～3H	I	I
		第13層 No.1 埋蔵品 No.	(26G)	7ヶ土A
		埋蔵品 No.	I	B
		埋蔵品 No.	2	4
		埋蔵品 No.	3	2
		埋蔵品 No.	4	3
		埋蔵品 No.	6	3
14H	第14層 No.	3	4	
		4	3	
16G	第17層 No.3 埋蔵品	(97G)		第3層
19G	17層遺物	遺 7名		遺 6名

高崎市文化財調査報告書 第255集

中居町一丁目遺跡2

—事務所建設に伴う埋蔵文化財発掘調査—

平成22年3月25日印刷

平成22年3月31日発行

編集 高崎市教育委員会
 発行 高崎市教育委員会
 印刷 上毎印刷工業株式会社